

令和3年度

中津市公営企業決算審査意見書

病 院 事 業

診療所事業(小児救急センター)

水 道 事 業

下 水 道 事 業

中津市監査委員



中 監 第 254 号  
令 和 4 年 7 月 22 日

中津市長 奥 塚 正 典 殿

中津市監査委員 岡 雅 一

中津市監査委員 恒 賀 慎太郎

令和3年度中津市公営企業決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定に基づき、審査に付された令和3年度中津市公営企業の決算及び証書類、その他関係書類を審査したので、その結果について次のとおり意見を提出する。

# 目 次

|                            |    |
|----------------------------|----|
| 第 1. 審 査 の 対 象 .....       | 6  |
| 第 2. 審 査 の 期 間 .....       | 6  |
| 第 3. 審 査 の 方 法 .....       | 6  |
| 第 4. 審 査 の 結 果 .....       | 6  |
| 病院事業                       |    |
| 1. 事 業 の 概 要 .....         | 8  |
| 2. 予 算 及 び 決 算 の 状 況 ..... | 9  |
| 3. 経 営 成 績 .....           | 11 |
| 4. 財 政 状 態 .....           | 14 |
| 5. む す び .....             | 17 |
| 別 表 .....                  | 19 |
| 診療所事業                      |    |
| 1. 事 業 の 概 要 .....         | 26 |
| 2. 予 算 及 び 決 算 の 状 況 ..... | 27 |
| 3. 経 営 成 績 .....           | 29 |
| 4. 財 政 状 態 .....           | 31 |
| 5. む す び .....             | 34 |
| 別 表 .....                  | 35 |
| 水道事業                       |    |
| 1. 事 業 の 概 要 .....         | 42 |
| 2. 予 算 及 び 決 算 の 状 況 ..... | 43 |
| 3. 経 営 成 績 .....           | 46 |
| 4. 財 政 状 態 .....           | 49 |
| 5. む す び .....             | 53 |
| 別 表 .....                  | 55 |
| 下水道事業                      |    |
| 1. 事 業 の 概 要 .....         | 58 |
| 2. 予 算 及 び 決 算 の 状 況 ..... | 59 |
| 3. 経 営 成 績 .....           | 62 |
| 4. 財 政 状 態 .....           | 65 |
| 5. む す び .....             | 69 |
| 別 表 .....                  | 71 |

## 凡 例

1. 文中及び表中で用いる百分率は、原則として小数点以下第2位を、金額の千円単位は、千円未満をそれぞれ四捨五入している。  
このため、各表間の比率金額等で突合しない場合もあり、合計値と一致しない場合がある。
2. 構成比（％）は、合計が100となるよう一部調整した。
3. 収入率とは、収入予算額に対する決算額の割合で、執行率とは、支出予算額に対する決算額の割合である。
4. 「ポイント」とは、パーセント間又は指数間の単純差引数値である。
5. 符号の用法は次のとおりである。
  - （ 0.0 ） ……該当数値はあるが単位未満のもの
  - （ 0、－ ） ……該当数値のないもの又は算出不能のもの
  - （ △ ） ……減少又は不足
  - （大幅増） ……計数が1,000%以上増加したもの
  - （大幅減） ……計数が1,000%以上減少したもの
  - （皆 増） ……前年度に該当数値がなく、当年度に全額増加したもの
  - （皆 減） ……前年度に該当数値があり、当年度に全額減少したもの、又は前年度に該当数値がなく、当年度に減少したもの

# 令和3年度 中津市公営企業決算審査意見

## 第1. 審査の対象

令和3年度 中津市病院事業決算  
令和3年度 中津市診療所事業決算  
令和3年度 中津市水道事業決算  
令和3年度 中津市下水道事業決算

## 第2. 審査の期間

令和4年7月8日 から 令和4年7月22日 まで

## 第3. 審査の方法

決算審査に当たっては、市長から提出された決算書類について、会計諸帳簿と照合するとともに、必要に応じて関係職員の説明を聴取し、事業の経営内容を把握するため各計数の分析を行い、経済性の発揮及び公共性の確保を主眼として審査した。

## 第4. 審査の結果

審査に付された決算諸表の計数は正確であり、また経営成績及び財政状態を適正に表示しているものと認める。

なお、審査の概要及び意見については、次のとおりである。

# 病院事業

# 1. 事業の概要

## (1) 業務の実績

本病院は、地域の中核病院として安定した経営を維持しながら、変化する医療環境や多様な医療ニーズなどに迅速かつ柔軟に対応していくため、平成26年4月1日に地方公営企業法の「一部適用」から「全部適用」へ移行し運営を行っている。

新型コロナウイルス感染症による感染者数は最大規模となり、感染拡大を繰り返す年となったが、前年度に一般病床4床の簡易陰圧室への改修や、新病棟の臨時的活用を行ったこと等により、円滑な患者受入れを実施しており、延入院患者は減少しているものの、新規入院患者及び延外来患者については前年度と比べ増加となり、医業収益の回復が見られた。

利用状況は、延入院患者数84,159人、延外来患者数66,053人の合計150,212人となっており、前年度に比べ321人(0.2%)増加している。

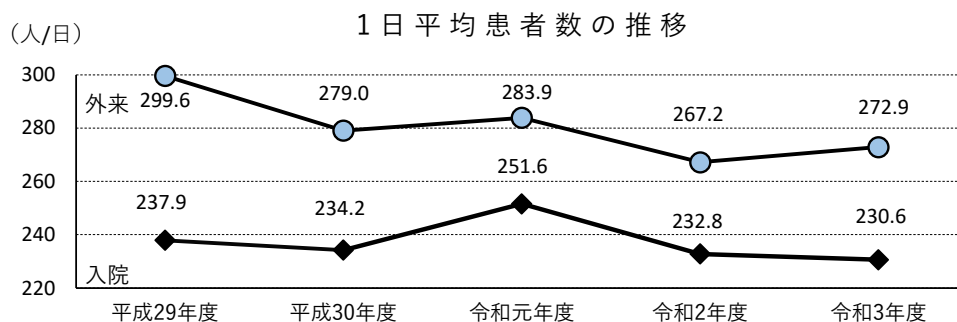
入院患者数の1日平均は230.6人で、前年度に比べ2.2人(0.9%)、病床稼働率は92.2%で、前年度に比べ0.9ポイントそれぞれ減少している。診療部門別では主に、神経内科が611人(27.2%)、循環器内科が617人(6.4%)、小児科が1,592人(32.3%)、緩和ケアセンターが524人(40.7%)それぞれ増加したものの、内科が1,227人(15.9%)、腎臓内科が565人(20.7%)、外科が1,038人(5.7%)それぞれ減少している。

外来患者数の1日平均は272.9人で、前年度に比べ5.7人(2.1%)増加している。診療部門別では主に、内科が1,698人(23.7%)減少したものの、循環器内科が560人(11.0%)、呼吸器外科が972人(24.9%)それぞれ増加している。

施設の利用状況 (単位：床、人、日、%)

| 区分<br>年度 | 病床数 | 延入院患者  |      |         |       | 延外来患者  |      |         | 合計      |
|----------|-----|--------|------|---------|-------|--------|------|---------|---------|
|          |     | 延患者数   | 診療日数 | 1日平均患者数 | 病床稼働率 | 延患者数   | 診療日数 | 1日平均患者数 | 延患者数    |
| 令和3年度    | 250 | 84,159 | 365  | 230.6   | 92.2  | 66,053 | 242  | 272.9   | 150,212 |
| 令和2年度    | 250 | 84,967 | 365  | 232.8   | 93.1  | 64,924 | 243  | 267.2   | 149,891 |
| 増減       | 0   | △808   | 0    | △2.2    | △0.9  | 1,129  | △1   | 5.7     | 321     |
| 増減率      | -   | △1.0   | 0.0  | △0.9    | -     | 1.7    | △0.4 | 2.1     | 0.2     |

(中津市民病院年報による)





## (2) 職員数の状況

年度末における職員数は369人で、前年度に比べ13人増員している。内訳は、医療職1が1人、医療職3が12人それぞれ増員となっている。

### 職員数の状況

(単位：人)

| 区分<br>年度 | 医療職1<br>(医師) | 医療職2<br>(医療技術員) | 医療職3<br>(看護師他) | 医療職4<br>(看護助手) | 行政職 | 合計  |
|----------|--------------|-----------------|----------------|----------------|-----|-----|
| 令和3年度    | 49           | 46              | 250            | 0              | 24  | 369 |
| 令和2年度    | 48           | 46              | 238            | 0              | 24  | 356 |
| 増減       | 1            | 0               | 12             | 0              | 0   | 13  |

※医療職2：薬剤師・診療放射線技師・臨床検査技師・臨床工学技師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・歯科衛生士  
医療職3：看護師・助産師・保健師

## 2. 予算及び決算の状況

### (1) 収益的収入及び支出

病院事業収益は、決算額8,332,498,505円(うち仮受消費税13,318,493円)で、収入率は99.3%である。このうち医業収益は、決算額7,387,140,667円(うち仮受消費税9,995,638円)で、収入率は98.7%である。

病院事業費用は、決算額8,135,641,165円(うち仮払消費税190,505,633円)であり、執行率は99.6%となっている。このうち特別損失は、決算額55,838,237円(うち仮払消費税1,073円)となっている。

以上のとおり、収益的収支については、差引196,857,340円(消費税を含む)の黒字決算となっている。

### 収入 収益的収入及び支出 (単位：円、%)

| 科目         | 区分 | 予算額           | 決算額           | 収入率   | 予算額と<br>決算額の差 | うち仮受<br>消費税 |
|------------|----|---------------|---------------|-------|---------------|-------------|
| 第1款 病院事業収益 |    | 8,391,034,000 | 8,332,498,505 | 99.3  | △58,535,495   | 13,318,493  |
| 第1項 医業収益   |    | 7,483,892,000 | 7,387,140,667 | 98.7  | △96,751,333   | 9,995,638   |
| 第2項 医業外収益  |    | 907,141,000   | 944,822,464   | 104.2 | 37,681,464    | 3,322,855   |
| 第3項 特別利益   |    | 1,000         | 535,374       | 大幅増   | 534,374       | 0           |
| 令和2年度      |    | 8,170,252,000 | 7,838,892,311 | 95.9  | △331,359,689  | 11,290,486  |
| 前年度<br>対比  | 金額 | 220,782,000   | 493,606,194   | -     | -             | -           |
|            | 伸率 | 2.7           | 6.3           | -     | -             | -           |

### 支出 (単位：円、%)

| 科目         | 区分 | 予算額           | 決算額           | 執行率   | 不用額         | うち仮払<br>消費税 |
|------------|----|---------------|---------------|-------|-------------|-------------|
| 第1款 病院事業費用 |    | 8,166,462,000 | 8,135,641,165 | 99.6  | 30,820,835  | 190,505,633 |
| 第1項 医業費用   |    | 8,059,694,000 | 8,019,415,115 | 99.5  | 40,278,885  | 190,497,044 |
| 第2項 医業外費用  |    | 61,268,000    | 60,387,813    | 98.6  | 880,187     | 7,516       |
| 第3項 特別損失   |    | 35,500,000    | 55,838,237    | 157.3 | △20,338,237 | 1,073       |
| 第4項 予備費    |    | 10,000,000    | 0             | 0.0   | 10,000,000  | 0           |
| 令和2年度      |    | 7,981,916,000 | 7,681,549,547 | 96.2  | 300,366,453 | 172,394,087 |
| 前年度<br>対比  | 金額 | 184,546,000   | 454,091,618   | -     | -           | -           |
|            | 伸率 | 2.3           | 5.9           | -     | -           | -           |
| 収支差引額      |    | 224,572,000   | 196,857,340   | -     | -           | -           |

## (2) 資本的収入及び支出

資本的収入は、決算額 324,207,409 円(うち仮受消費税 0 円)で、収入率 100.0%である。前年度決算額と比べ 229,251,330 円(241.4%)増加している。これは主に、医療機器購入のための企業債借入が 260,400,000 円(皆増)増加したためである。

資本的支出は、決算額 2,980,996,080 円(うち仮払消費税 32,683,533 円)、執行率は 97.7%で、前年度決算額と比べ 2,734,098,123 円(大幅増)増加している。これは主に、事業基金設置に伴う基金積立金が 2,495,541,681 円(皆増)増加したためである。

### 収 入 資本的収入及び支出 (単位：円、%)

| 科目           | 区分  | 予 算 額       | 決 算 額       | 収入率   | 予 算 額 と<br>決 算 額 の 差 | うち仮受<br>消 費 税 |
|--------------|-----|-------------|-------------|-------|----------------------|---------------|
| 第1款 資本的収入    |     | 324,209,000 | 324,207,409 | 100.0 | △1,591               | 0             |
| 第1項 企 業 債    |     | 260,400,000 | 260,400,000 | 100.0 | 0                    | 0             |
| 第2項 出 資 金    |     | 46,006,000  | 46,005,409  | 100.0 | △591                 | 0             |
| 第3項 補 助 金    |     | 15,802,000  | 15,802,000  | 100.0 | 0                    | 0             |
| 第4項 寄 附 金    |     | 2,000,000   | 2,000,000   | 100.0 | 0                    | 0             |
| 第5項 固定資産売却代金 |     | 1,000       | 0           | 0.0   | △1,000               | 0             |
| 令和2年度        |     | 94,957,000  | 94,956,079  | 100.0 | △921                 | 0             |
| 前年度          | 金 額 | 229,252,000 | 229,251,330 | -     | -                    | -             |
| 対 比          | 伸 率 | 241.4       | 241.4       | -     | -                    | -             |

### 支 出 (単位：円、%)

| 科目         | 区分  | 予 算 額          | 決 算 額          | 執行率   | 不 用 額      | うち仮払<br>消 費 税 |
|------------|-----|----------------|----------------|-------|------------|---------------|
| 第1款 資本的支出  |     | 3,050,697,000  | 2,980,996,080  | 97.7  | 69,700,920 | 32,683,533    |
| 第1項 建設改良費  |     | 415,200,000    | 359,957,980    | 86.7  | 55,242,020 | 32,683,533    |
| 第2項 企業債償還金 |     | 125,497,000    | 125,496,419    | 100.0 | 581        | 0             |
| 第3項 基金積立金  |     | 2,500,000,000  | 2,495,541,681  | 99.8  | 4,458,319  | 0             |
| 第4項 予 備 費  |     | 10,000,000     | 0              | 0.0   | 10,000,000 | 0             |
| 令和2年度      |     | 270,933,000    | 246,897,957    | 91.1  | 24,035,043 | 11,136,738    |
| 前年度        | 金 額 | 2,779,764,000  | 2,734,098,123  | -     | -          | -             |
| 対 比        | 伸 率 | 大幅増            | 大幅増            | -     | -          | -             |
| 収支差引額      |     | △2,726,488,000 | △2,656,788,671 | -     | -          | -             |

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額 2,656,788,671 円(④)は、当年度分消費税資本的収支調整額 32,683,533 円(①)、過年度損益勘定留保資金 2,611,269,043 円(②)及び減債積立金 12,836,095 円(③)で補てんしている。

### 補てん財源調書 (単位：円)

| 科目          | 区分 | 前年度末残高        | 本年度増加額      | 本年度減少額<br>(補てん額) | 本年度末残高        |
|-------------|----|---------------|-------------|------------------|---------------|
| 消費税資本的収支調整額 |    | 0             | 32,683,533  | ① 32,683,533     | 0             |
| 過年度損益勘定留保資金 |    | 3,440,702,137 | 364,246,650 | ② 2,611,269,043  | 1,193,679,744 |
| 利 益 剰 余 金   |    | 195,054,612   | 23,798,795  | 12,836,095       | 206,017,312   |
| 減 債 積 立 金   |    | 12,836,095    | 23,798,795  | ③ 12,836,095     | 23,798,795    |
| 利 益 積 立 金   |    | 182,218,517   | 0           | 0                | 182,218,517   |
| 建設改良積立金     |    | 0             | 0           | 0                | 0             |
| 合 計         |    | 3,635,756,749 | 420,728,978 | ④ 2,656,788,671  | 1,399,697,056 |

※消費税資本的収支調整額：消費税及び地方消費税は、収益的収支と資本的収支の差額分を一括して計算し収益的収入・支出としている。このため、資本的収支上に消費税等の差引額は反映されていないことから、消費税等に係る資本的収支の差引額を補てん財源として充てるもの。

※損益勘定留保資金：現金支出を伴わない減価償却費に相当する額等。

※減債積立金：企業債償還金の財源としての積立金。

※利益積立金：欠損金の補填のための財源としての積立金。

### (3) 建設改良費

建設改良費 359,957,980 円の内訳は、器械器具整備費 357,086,939 円、リース債務支払額 2,871,041 円となっている。なお、器械器具整備費の主なものについては以下のとおりである。

#### 器 械 器 具 整 備 費

(単位：円)

| 医療器械器具            |    |             | その他器械器具           |    |             |
|-------------------|----|-------------|-------------------|----|-------------|
| 気管支ファイバースコープ      | 一台 | 925,100     | 画像処理ユニット          | 一式 | 3,520,000   |
| 汎用超音波画像診断装置       | 一式 | 4,444,000   | シンククライアントビューワシステム | 一式 | 4,180,000   |
| 血液浄化装置            | 一台 | 5,280,000   | 薬袋プリンタ            | 一台 | 1,515,800   |
| 超音波画像診断装置         | 一式 | 11,000,000  | 送信機               | 五台 | 1,815,000   |
| 胸骨鋸               | 一台 | 1,430,000   | 自動再来受付機           | 二台 | 3,960,000   |
| 臨床用ポリグラフシステム      | 一式 | 10,945,000  | プロジェクター           | 一台 | 1,034,000   |
| 密閉式固定包埋装置         | 一台 | 5,632,000   | 入替サーバー            | 一式 | 702,900     |
| 自動遺伝子解析装置         | 一式 | 5,417,500   | 画像サーバーシステム        | 一式 | 38,500,000  |
| AIMラパロスコープ        | 一台 | 825,000     | 映像支援システム          | 一式 | 31,900,000  |
| タニケット             | 一台 | 685,960     | 急患室・中央処置室薬用保冷库    | 一台 | 715,000     |
| 咽頭ファイバースコープ       | 一台 | 770,000     | インフォメーションディスプレイ   | 一式 | 2,099,900   |
| 血圧脈波検査装置          | 一式 | 1,111,000   | 送信機               | 三台 | 1,053,360   |
| 磁気共鳴装置(MRI(1.5T)) | 一式 | 166,100,000 | 血管撮影装置用天井吊り防護板    | 一式 | 1,870,000   |
| デジタル式乳房X線撮影装置     | 一式 | 23,980,000  | その他の器械器具          |    | 2,793,527   |
| 全身麻酔器             | 一台 | 6,600,000   |                   |    |             |
| 汎用超音波画像診断装置       | 一式 | 4,785,000   |                   |    |             |
| 汎用超音波画像診断装置       | 一式 | 6,193,000   |                   |    |             |
| 吸引式乳房組織生検装置       | 一台 | 1,045,000   |                   |    |             |
| 体外式ペースメーカー        | 一台 | 1,239,700   |                   |    |             |
| 内視鏡洗浄消毒装置         | 一台 | 1,980,000   |                   |    |             |
| その他の医療器械器具        |    | 1,039,192   |                   |    |             |
| 医療器械器具計           |    | 261,427,452 | その他器械器具計          |    | 95,659,487  |
|                   |    |             | 合 計               |    | 357,086,939 |

## 3. 経営成績

### (1) 医 業 損 益

医業収益は 7,377,145,029 円(金額は消費税抜き。以下同じ。)で、前年度に比べ 433,875,938 円(6.2%)増加している。これは主に、新規患者の増や診療単価の増により入院収益が 311,825,377 円(6.4%)、外来収益が 110,830,290 円(5.8%)増加したためである。

医業費用は 7,828,918,071 円で、前年度に比べ 422,318,024 円(5.7%)増加している。これは主に、新規患者数増や抗がん剤費用増により材料費が 162,769,152 円(8.4%)、大規模修繕に備えた特別修繕引当金等の増により経費が 166,266,051 円(13.2%)それぞれ増加したためである。

医業損益は 451,773,042 円の損失となり、前年度に比べ 11,557,914 円(2.5%)損失が減少している。

なお、比率が高いほど良いとされる医業収支比率は 94.2%で、前年度の 93.7%と比べ 0.5 ポイント上昇し、通常 100%以上とされる理想比率を下回っているものの、類似団体の 61.2%と比べると高い水準となっている。(別表 2-1)

また、一般的に 50%以下が望ましいとされる医業収益に対する職員給与費の割合を示す職員給与費対医業収益比率は 50.5%で、前年度の 52.6%と比べ 2.1 ポイント減少しており、類似団体の 56.4%と比べても良好な数値となっている。(別表 2-2)

## (2) 医業外損益

医業外収益は 941,499,609 円で、前年度に比べ 58,990,978 円(6.7%)増加している。これは主に、他会計負担金が不採算地区病院の運営に関する経費の算定基準見直し等により 22,539,329 円(15.7%)減少したものの、補助金が新型コロナウイルス感染症緊急包括支援事業補助金の増等により 79,626,182 円(21.0%)増加したためである。

医業外費用は 410,625,982 円で、前年度に比べ 44,414,548 円(12.1%)増加している。これは主に、雑損失が控除対象外消費税の増により 45,904,015 円(14.7%)増加したためである。

これにより、医業外損益は 530,873,627 円の利益となり、前年度に比べ 14,576,430 円(2.8%)の増加となっている。

## (3) 経常損益

医業損益と医業外損益を合計した経常損益は 79,100,585 円の利益となっており、前年度に比べ 26,134,344 円(49.3%)増加している。

なお、100%を超える数値が高いほど経営状態が良好とされる経常収支比率は 101.0%で、前年度の 100.7%と比べ 0.3 ポイント上昇している。(別表 2-2)

## (4) 特別損益

特別利益は 535,374 円で、前年度に比べ 1,288,729 円(70.7%)減少している。

特別損失は 55,837,164 円で、前年度に比べ 13,882,915 円(33.1%)増加している。

## (5) 当年度損益

当年度の損益は、総収益と総費用を差し引きした 23,798,795 円の純利益となっており、前年度に比べ 10,962,700 円(85.4%)増加している。

なお、通常 100%以上とされる総収益と総費用を対比した総収支比率は 100.3%で、前年度の 100.2%と比べ 0.1 ポイント上昇している。(別表 2-1)

## 比較損益計算書

(単位：円、%)

| 区分                       | 令和 2 年度       |                        |                     | 令和 3 年度       |                        |                     | 増 減         |       |
|--------------------------|---------------|------------------------|---------------------|---------------|------------------------|---------------------|-------------|-------|
|                          | 金 額           | 総収益又は<br>総費用に<br>対する比率 | 医業収益<br>に対する<br>比 率 | 金 額           | 総収益又は<br>総費用に<br>対する比率 | 医業収益<br>に対する<br>比 率 | 金 額         | 比 率   |
| 1 医 業 収 益                | 6,943,269,091 | 88.7                   | 100.0               | 7,377,145,029 | 88.7                   | 100.0               | 433,875,938 | 6.2   |
| (1) 入 院 収 益              | 4,871,294,427 | 62.2                   | 70.2                | 5,183,119,804 | 62.3                   | 70.3                | 311,825,377 | 6.4   |
| (2) 外 来 収 益              | 1,906,930,785 | 24.4                   | 27.5                | 2,017,761,075 | 24.3                   | 27.4                | 110,830,290 | 5.8   |
| (3) その他医業収益              | 115,173,879   | 1.5                    | 1.7                 | 126,394,150   | 1.5                    | 1.7                 | 11,220,271  | 9.7   |
| (4) 他会計負担金               | 49,870,000    | 0.6                    | 0.7                 | 49,870,000    | 0.6                    | 0.7                 | 0           | 0.0   |
| 2 医 業 費 用                | 7,406,600,047 | 94.8                   | 106.8               | 7,828,918,071 | 94.3                   | 106.1               | 422,318,024 | 5.7   |
| (1) 給 与 費                | 3,684,509,858 | 47.1                   | 53.1                | 3,758,692,334 | 45.3                   | 51.0                | 74,182,476  | 2.0   |
| (2) 材 料 費                | 1,928,261,228 | 24.7                   | 27.8                | 2,091,030,380 | 25.2                   | 28.3                | 162,769,152 | 8.4   |
| (3) 経 費                  | 1,260,838,985 | 16.1                   | 18.2                | 1,427,105,036 | 17.2                   | 19.3                | 166,266,051 | 13.2  |
| (4) 減 価 償 却 費            | 502,567,065   | 6.5                    | 7.2                 | 506,717,437   | 6.1                    | 6.9                 | 4,150,372   | 0.8   |
| (5) 資 産 減 耗 費            | 5,046,296     | 0.1                    | 0.1                 | 20,591,228    | 0.2                    | 0.3                 | 15,544,932  | 308.0 |
| (6) 研 究 研 修 費            | 25,376,615    | 0.3                    | 0.4                 | 24,781,656    | 0.3                    | 0.3                 | △594,959    | △2.3  |
| A 医 業 損 益<br>(1 - 2)     | △463,330,956  | -                      | △6.7                | △451,773,042  | -                      | △6.1                | 11,557,914  | 2.5   |
| 3 医 業 外 収 益              | 882,508,631   | 11.3                   | 12.8                | 941,499,609   | 11.3                   | 12.8                | 58,990,978  | 6.7   |
| (1) 受取利息及び配当金            | 2,586,379     | 0.0                    | 0.0                 | 2,023,611     | 0.0                    | 0.0                 | △562,768    | △21.8 |
| (2) 他会計補助金               | 149,978,000   | 1.9                    | 2.2                 | 142,499,000   | 1.7                    | 1.9                 | △7,479,000  | △5.0  |
| (3) 長期前受金戻入額             | 170,929,750   | 2.2                    | 2.5                 | 177,682,282   | 2.1                    | 2.4                 | 6,752,532   | 4.0   |
| (4) 補 助 金                | 379,168,921   | 4.9                    | 5.5                 | 458,795,103   | 5.5                    | 6.2                 | 79,626,182  | 21.0  |
| (5) 他会計負担金               | 143,177,513   | 1.8                    | 2.1                 | 120,638,184   | 1.5                    | 1.6                 | △22,539,329 | △15.7 |
| (6) その他医業外収益             | 36,668,068    | 0.5                    | 0.5                 | 39,861,429    | 0.5                    | 0.5                 | 3,193,361   | 8.7   |
| 4 医 業 外 費 用              | 366,211,434   | 4.7                    | 5.3                 | 410,625,982   | 5.0                    | 5.6                 | 44,414,548  | 12.1  |
| (1) 支払利息及び企業債取扱諸費        | 39,437,595    | 0.5                    | 0.6                 | 37,948,128    | 0.5                    | 0.5                 | △1,489,467  | △3.8  |
| (2) 長期前払消費税償却費           | 14,903,969    | 0.2                    | 0.2                 | 14,903,969    | 0.2                    | 0.2                 | 0           | 0.0   |
| (3) 雑 損 失                | 311,869,870   | 4.0                    | 4.5                 | 357,773,885   | 4.3                    | 4.8                 | 45,904,015  | 14.7  |
| B 医 業 外 損 益<br>(3 - 4)   | 516,297,197   | -                      | 7.4                 | 530,873,627   | -                      | 7.2                 | 14,576,430  | 2.8   |
| C 経 常 損 益<br>(A+B)       | 52,966,241    | -                      | 0.8                 | 79,100,585    | -                      | 1.1                 | 26,134,344  | 49.3  |
| 5 特 別 利 益                | 1,824,103     | 0.0                    | 0.0                 | 535,374       | 0.0                    | 0.0                 | △1,288,729  | △70.7 |
| (1) 過年度損益修正益             | 1,813,517     | 0.0                    | 0.0                 | 144,274       | 0.0                    | 0.0                 | △1,669,243  | △92.0 |
| (2) その他特別利益              | 10,586        | 0.0                    | 0.0                 | 391,100       | 0.0                    | 0.0                 | 380,514     | 大幅増   |
| 6 特 別 損 失                | 41,954,249    | 0.5                    | 0.6                 | 55,837,164    | 0.7                    | 0.8                 | 13,882,915  | 33.1  |
| (1) 過年度損益修正損             | 41,954,249    | 0.5                    | 0.6                 | 55,837,164    | 0.7                    | 0.8                 | 13,882,915  | 33.1  |
| (2) その他特別損失              | 0             | 0.0                    | 0.0                 | 0             | 0.0                    | 0.0                 | 0           | -     |
| D 当 年 度 純 利 益<br>(C+5-6) | 12,836,095    | -                      | 0.2                 | 23,798,795    | -                      | 0.3                 | 10,962,700  | 85.4  |
| E その他未処分利益剰余金変動額         | 6,477,618     | -                      | 0.1                 | 12,836,095    | -                      | 0.2                 | 6,358,477   | 98.2  |
| 当年度未処分利益剰余金<br>(D+E)     | 19,313,713    | -                      | 0.3                 | 36,634,890    | -                      | 0.5                 | 17,321,177  | 89.7  |

※総収益、総費用は別表1参照

[令和 3 年度 総収益 8,319,180,012 円 総費用 8,295,381,217 円]  
 [令和 2 年度 総収益 7,827,601,825 円 総費用 7,814,765,730 円]

## 4. 財政状態

### (1) 資産

資産合計は 12,707,912,668 円で、前年度末に比べ 476,445,307 円(3.9%)増加している。これは、流動資産が 1,810,791,933 円(35.8%)減少したものの、固定資産が 2,287,237,240 円(31.9%)増加したためである。

固定資産は主に、建物附属設備が減価償却の増により 181,416,394 円(9.5%)減少し、器械備品が磁気共鳴装置(MRI)等の器械器具の購入により 130,429,027 円(17.8%)、基金積立金が事業基金の設置に伴い 2,495,296,681 円(皆増)それぞれ増加している。

流動資産は主に、現金預金が定期預金の基金積立金への移行等により 1,727,241,309 円(46.4%)減少している。

未収金 1,245,665,294 円の内訳は、現年度分 1,232,799,431 円、過年度分 12,865,863 円となっている。また、本年度は 278,273 円の不納欠損処分を行っている。不能欠損処分については、いずれも関係法令等に則り適正に処理しているものと認められた。今後も引き続き適正な債権管理に努められたい。

#### 未 収 金 等 の 状 況

(単位：円)

| 区分     |       | 年度            | 令和 2 年度       | 令和 3 年度     | 対前年度増減額   |
|--------|-------|---------------|---------------|-------------|-----------|
|        |       |               |               |             |           |
| 現年度未収金 | 医業収益  | 入院収益          | 794,503,589   | 796,011,084 | 1,507,495 |
|        |       | 外来収益          | 300,987,171   | 310,591,952 | 9,604,781 |
|        |       | 室料差額収益        | 1,066,460     | 10,269,116  | 9,202,656 |
|        |       | 公衆衛生活動収益      | 3,648,607     | 3,780,771   | 132,164   |
|        |       | 二次救急輪番補助      | 9,395,675     | 8,931,250   | △464,425  |
|        |       | その他医業収益       | 2,378,206     | 5,093,136   | 2,714,930 |
|        | 医業外収益 | 184,753,941   | 97,961,122    | △86,792,819 |           |
|        | その他   | 312,000       | 161,000       | △151,000    |           |
| 計      |       | 1,297,045,649 | 1,232,799,431 | △64,246,218 |           |
| 過年度未収金 |       | 11,667,086    | 12,865,863    | 1,198,777   |           |
| 合計     |       | 1,308,712,735 | 1,245,665,294 | △63,047,441 |           |
| 不納欠損額  |       | 826,302       | 278,273       | △548,029    |           |

※未収金には保険診療報酬(2月分・3月分)含む。

### (2) 負債及び資本

固定負債は 4,119,707,278 円で、前年度末に比べ 270,730,458 円(7.0%)増加している。これは主に、企業債が借入等により 72,113,180 円(2.3%)、引当金が長期的な修繕計画に基づく特別修繕引当金の増等により 193,501,278 円(28.9%)それぞれ増加したためである。

流動負債は 1,179,273,051 円で、前年度末に比べ 295,790,927 円(33.5%)増加している。これは主に、企業債が新病棟建設時の財政融資資金借入分の据置期間終了による元金償還開始のため 62,790,401 円(50.0%)、未払金が器械器具整備費及び退職給付費用の増により 245,690,244 円(113.4%)それぞれ増加したためである。なお、企業債の概況は次表のとおりである。

## 企業債の概況

(単位：円)

| 借入先     | 借入の目的    | 前年度末残高        | 本年度借入額      | 本年度償還高      | 本年度末残高        |
|---------|----------|---------------|-------------|-------------|---------------|
| 財政融資資金  | 病院建設事業   | 3,288,970,418 | 0           | 109,293,989 | 3,179,676,429 |
|         | 医療器機購入事業 | 16,202,430    | 55,800,000  | 16,202,430  | 55,800,000    |
| 大分県信用組合 | 医療器機購入事業 | 0             | 204,600,000 | 0           | 204,600,000   |
| 合 計     |          | 3,305,172,848 | 260,400,000 | 125,496,419 | 3,440,076,429 |

また、短期債務に対する支払能力を示す流動比率は275.7%で、前年度の572.9%と比べ297.2ポイント下降しているものの、200%以上とされる理想比率を上回っている。(別表2-1)

流動資産のうち現金預金や未収金などの当座資産と流動負債を対比させた酸性試験比率(当座比率)は274.6%で、前年度の569.3%と比べ294.7ポイント下降しているものの、100%以上が望ましいとされる理想比率を大きく上回っている。(別表2-1)

繰延収益1,424,574,289円のうち、長期前受金は2,552,030,914円で、その内訳は、他会計長期前受金(一般会計補助金等)1,627,669,084円、補助金長期前受金(国・県補助金)921,880,930円、その他長期前受金2,480,900円である。

長期前受金収益化累計額は△1,127,456,625円で、その内訳は、他会計長期前受金収益化累計額△735,055,058円、補助金長期前受金収益化累計額△391,944,712円、その他長期前受金収益化累計額△456,855円である。

資本金は5,730,743,318円で、前年度末に比べ7,543,008円(0.1%)増加している。

比率が低いほど経営が安定しているとされる総資本に対する固定負債の占める割合を示す固定負債構成比率は32.4%で、前年度の31.5%に比べ0.9ポイント上昇しているものの、類似団体の59.9%と比べると低い数値となっている。(別表2-1)

### (3) 剰 余 金

剰余金は253,614,732円で、前年度末に比べ17,321,177円(7.3%)増加している。この内訳は、資本剰余金34,761,325円、利益剰余金218,853,407円である。

なお、当年度未処分利益剰余金36,634,890円のうち、当年度純利益23,798,795円は減債積立金に積立予定である。(10頁「補てん財源調書」)

### (4) キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー計算書は財務諸表のひとつで、会計期間内の資金の動きを表したものであり、3つに細分化される。

業務活動によるキャッシュ・フローは、企業の主たる営業活動で発生した現金や容易に換金可能な預金(以下現金等)の増減を表している。本年度は672,799,775円である。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備等の投資、固定資産の売買に関する現金等の増減を表している。本年度は△2,533,360,098円である。

財務活動によるキャッシュ・フローは、企業活動に必要な資金の調達や企業債などの返済に関する現金等の増減を表している。本年度は133,319,014円である。(別表3)

以上の3区分から、本年度の資金期末残高は1,992,851,011円である。これは貸借対照表中の現金預金及び有価証券の額と一致しており、この資金期末残高(現金1,200,000円、普通預金1,991,651,011円)と出納取扱金融機関の当年度末預金残高等とを照合した結果、正確であることを確認した。



比較貸借対照表

(単位：円、%)

| 区 分                         | 令和 2 年度        |       | 令和 3 年度        |       | 増 減            |       |
|-----------------------------|----------------|-------|----------------|-------|----------------|-------|
|                             | 金 額            | 構成比   | 金 額            | 構成比   | 金 額            | 比率    |
| 1 固 定 資 産                   | 7,169,628,616  | 58.6  | 9,456,865,856  | 74.4  | 2,287,237,240  | 31.9  |
| (1) 有 形 固 定 資 産             | 7,027,227,650  | 57.5  | 6,834,072,178  | 53.8  | △193,155,472   | △2.7  |
| イ 土 地                       | 815,182,765    | 6.7   | 815,182,765    | 6.4   | 0              | 0.0   |
| ロ 立 木                       | 19,000,000     | 0.2   | 19,000,000     | 0.1   | 0              | 0.0   |
| ハ 建 物                       | 3,317,990,758  | 27.1  | 3,225,706,536  | 25.4  | △92,284,222    | △2.8  |
| ニ 建 物 附 属 設 備               | 1,906,839,384  | 15.6  | 1,725,422,990  | 13.6  | △181,416,394   | △9.5  |
| ホ 構 築 物                     | 215,906,928    | 1.8   | 175,745,494    | 1.4   | △40,161,434    | △18.6 |
| ヘ 器 械 備 品                   | 733,834,932    | 6.0   | 864,263,959    | 6.8   | 130,429,027    | 17.8  |
| ト 車 両                       | 1,300,221      | 0.0   | 757,640        | 0.0   | △542,581       | △41.7 |
| チ リ ー ス 資 産                 | 17,172,662     | 0.1   | 7,992,794      | 0.1   | △9,179,868     | △53.5 |
| リ 建 設 仮 勘 定                 | 0              | 0.0   | 0              | 0.0   | 0              | —     |
| (2) 投 資                     | 142,400,966    | 1.1   | 2,622,793,678  | 20.6  | 2,480,392,712  | 大幅増   |
| イ 基 金 積 立 金                 | 0              | 0.0   | 2,495,296,681  | 19.6  | 2,495,296,681  | 皆増    |
| ロ 長 期 前 払 消 費 税             | 142,400,966    | 1.1   | 127,496,997    | 1.0   | △14,903,969    | △10.5 |
| 2 流 動 資 産                   | 5,061,838,745  | 41.4  | 3,251,046,812  | 25.6  | △1,810,791,933 | △35.8 |
| (1) 現 金 預 金                 | 3,720,092,320  | 30.4  | 1,992,851,011  | 15.7  | △1,727,241,309 | △46.4 |
| (2) 未 収 金                   | 1,308,712,735  | 10.7  | 1,245,311,956  | 9.8   | △63,400,779    | △4.8  |
| (3) 貯 蔵 品                   | 32,395,053     | 0.3   | 12,858,545     | 0.1   | △19,536,508    | △60.3 |
| (4) 前 払 金                   | 638,637        | 0.0   | 25,300         | 0.0   | △613,337       | △96.0 |
| 資 産 合 計                     | 12,231,467,361 | 100.0 | 12,707,912,668 | 100.0 | 476,445,307    | 3.9   |
| 3 固 定 負 債                   | 3,848,976,820  | 31.5  | 4,119,707,278  | 32.4  | 270,730,458    | 7.0   |
| (1) 企 業 債                   | 3,179,676,429  | 26.0  | 3,251,789,609  | 25.6  | 72,113,180     | 2.3   |
| (2) 長 期 リ ー ス 債 務           | 326,128        | 0.0   | 5,442,128      | 0.0   | 5,116,000      | 大幅増   |
| (3) 引 当 金                   | 668,974,263    | 5.5   | 862,475,541    | 6.8   | 193,501,278    | 28.9  |
| 4 流 動 負 債                   | 883,482,124    | 7.2   | 1,179,273,051  | 9.3   | 295,790,927    | 33.5  |
| (1) 企 業 債                   | 125,496,419    | 1.0   | 188,286,820    | 1.5   | 62,790,401     | 50.0  |
| (2) 短 期 リ ー ス 債 務           | 877,972        | 0.0   | 2,112,016      | 0.0   | 1,234,044      | 140.6 |
| (3) 未 払 金                   | 216,597,559    | 1.8   | 462,287,803    | 3.7   | 245,690,244    | 113.4 |
| (4) 未 払 費 用                 | 245,729,414    | 2.0   | 256,350,712    | 2.0   | 10,621,298     | 4.3   |
| (5) 未 払 消 費 税               | 1,569,100      | 0.0   | 2,588,800      | 0.0   | 1,019,700      | 65.0  |
| (6) 預 り 金                   | 26,480,160     | 0.2   | 26,026,900     | 0.2   | △453,260       | △1.7  |
| (7) 引 当 金                   | 266,731,500    | 2.2   | 241,620,000    | 1.9   | △25,111,500    | △9.4  |
| 5 繰 延 収 益                   | 1,539,514,552  | 12.5  | 1,424,574,289  | 11.2  | △114,940,263   | △7.5  |
| (1) 長 期 前 受 金               | 2,489,288,895  | 20.3  | 2,552,030,914  | 20.1  | 62,742,019     | 2.5   |
| (2) 長 期 前 受 金 収 益 化 累 計 額   | △949,774,343   | △7.8  | △1,127,456,625 | △8.9  | △177,682,282   | △18.7 |
| 6 資 本 金                     | 5,723,200,310  | 46.8  | 5,730,743,318  | 45.1  | 7,543,008      | 0.1   |
| (1) 資 本 金                   | 5,723,200,310  | 46.8  | 5,730,743,318  | 45.1  | 7,543,008      | 0.1   |
| 7 剰 余 金                     | 236,293,555    | 2.0   | 253,614,732    | 2.0   | 17,321,177     | 7.3   |
| (1) 資 本 剰 余 金               | 34,761,325     | 0.3   | 34,761,325     | 0.3   | 0              | 0.0   |
| イ 受 贈 財 産 評 価 額             | 33,961,325     | 0.3   | 33,961,325     | 0.3   | 0              | 0.0   |
| ロ 寄 附 金                     | 800,000        | 0.0   | 800,000        | 0.0   | 0              | 0.0   |
| (2) 利 益 剰 余 金               | 201,532,230    | 1.7   | 218,853,407    | 1.7   | 17,321,177     | 8.6   |
| イ 利 益 積 立 金                 | 182,218,517    | 1.5   | 182,218,517    | 1.4   | 0              | 0.0   |
| ロ 当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金     | 19,313,713     | 0.2   | 36,634,890     | 0.3   | 17,321,177     | 89.7  |
| 当 年 度 純 利 益                 | 12,836,095     | 0.1   | 23,798,795     | 0.2   | 10,962,700     | 85.4  |
| そ の 他 未 処 分 利 益 剰 余 金 変 動 額 | 6,477,618      | 0.1   | 12,836,095     | 0.1   | 6,358,477      | 98.2  |
| 負 債 ・ 資 本 合 計               | 12,231,467,361 | 100.0 | 12,707,912,668 | 100.0 | 476,445,307    | 3.9   |



## 5. む す び

以上が令和3年度病院事業の決算審査の概要である。

本年度は、前年度に比べ延入院患者数は減少したものの新規入院患者数と外来患者数が増加したこと、診療単価が増加したことなどにより医業損失は減少し、医業収支比率が上昇している。また、新型コロナウイルス感染症対応のための空床確保事業による国庫補助金が増加したことなどにより医業外収益も増加し、経常収支比率も上昇している。

患者の利用状況をみると、年間延患者数は150,212人で、前年度に比べ321人(0.2%)の増加となっている。延入院患者数は84,159人で前年度に比べ808人(1.0%)減少したものの、延外来患者数は66,053人と前年度に比べ1,129人(1.7%)増加している。また、病床稼働率は92.2%で、前年度に比べ0.9ポイント下降している。診療部門別の入院患者数は、主に内科、外科で減少しているものの小児科で増加しており、外来患者数は、内科が減少したものの循環器内科、呼吸器外科で増加している。

経営状況についてみると、総収益は8,319,180,012円(金額は消費税抜き。以下同じ。)で、前年度7,827,601,825円に比べ491,578,187円(6.3%)の増加となっている。

総費用は8,295,381,217円で、前年度7,814,765,730円に比べ480,615,487円(6.2%)の増加となっている。

この結果、当年度損益は23,798,795円の純利益となり、前年度12,836,095円の純利益に比べ10,962,700円(85.4%)増加している。また、当年度未処分利益剰余金は36,634,890円で、前年度19,313,713円に比べ17,321,177円(89.7%)増加している。

なお、医業収支比率は94.2%で、前年度に比べ0.5ポイント上昇し、経常収支比率も101.0%で、前年度に比べ0.3ポイント上昇している。

資本的収支についてみると、資本的収入は、324,207,409円で、前年度と比べ器械器具購入のための企業債借入が260,400,000円(皆増)増加したことなどにより229,251,330円(241.4%)増加している。

資本的支出は、2,980,996,080円で、前年度に比べ建設改良費の器械器具整備費が244,842,598円(218.1%)増加したこと、事業基金設置に伴う基金積立金が2,495,541,681円(皆増)増加したことなどにより2,734,098,123円(大幅増)増加している。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額2,656,788,671円は、当年度分消費税資本的収支調整額32,683,533円、過年度損益勘定留保資金2,611,269,043円及び減債積立金12,836,095円で補てんしている。

当年度末の企業債残高は、3,440,076,429円で、年度中の借入額は260,400,000円、償還額は125,496,419円となっている。

経営面においては、より質の高い医療を提供するために、公・民の適切な役割分担の下、地域において必要な医療提供体制の確保を図り、安定した経営の下で不採算医療や高度・先進医療等を提供する重要な役割を継続的に担っていくことが重要であり、引き続き医師・薬剤師をはじめとする必要な医療スタッフの確保に努めるとともに、職員の職場環境の改善を進め、教育・研修の拡充により職員の資質向上、人材育成を継続的に実施することを望む。

さらに今後は、デジタル社会の到来に対応し、利用者の利便性を向上するために、キャッシュ

レス収納の導入やオンライン診療等の新たな課題にも取り組むよう努められたい。

これからも、24 万人医療圏において唯一の公的基幹病院としての重責を果たすとともに、中津市民病院の医療スタッフになりたいという「あこがれの職場」であって欲しいと期待する。

別表 1

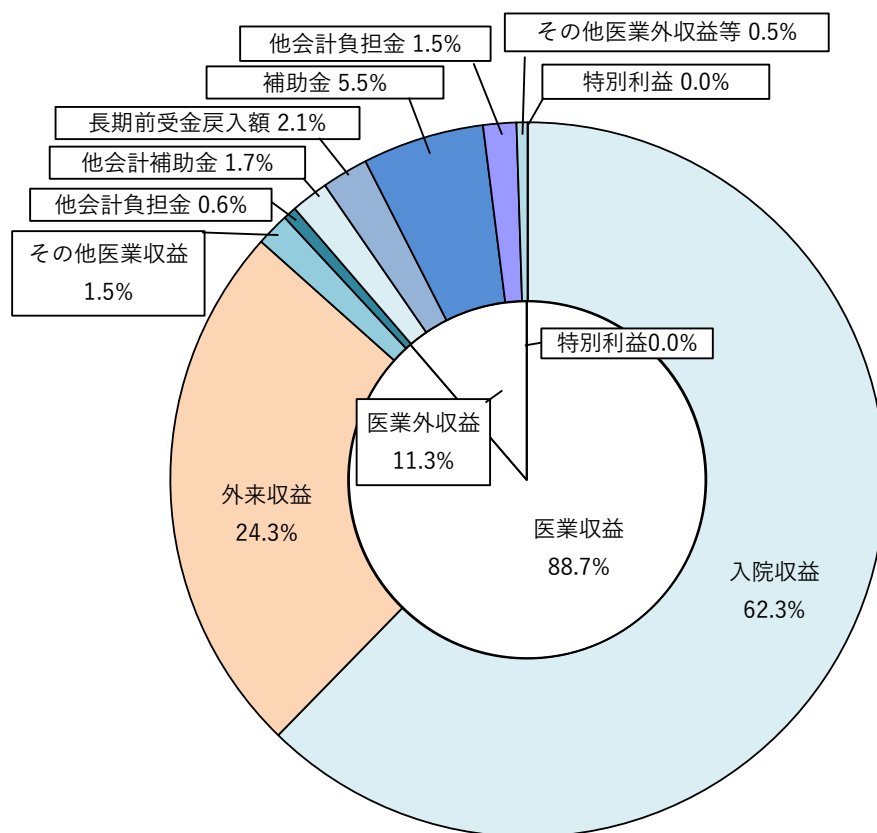
## 収益及び費用の内訳

(単位：円、%)

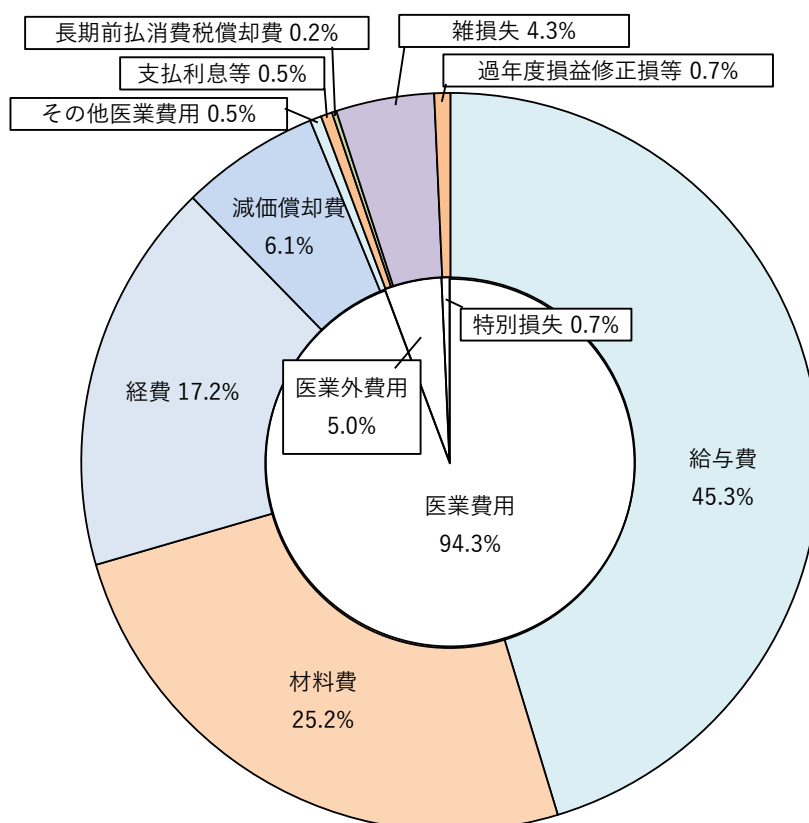
| 区 分     |         | 年 度              | 令和 2 年度       |               | 令和 3 年度       |             | 増 減         |       |
|---------|---------|------------------|---------------|---------------|---------------|-------------|-------------|-------|
|         |         |                  | 金 額           | 構成比           | 金 額           | 構成比         | 金 額         | 比 率   |
| 収 益     | 医業収益    | 1. 入院収益          | 4,871,294,427 | 62.2          | 5,183,119,804 | 62.3        | 311,825,377 | 6.4   |
|         |         | 2. 外来収益          | 1,906,930,785 | 24.4          | 2,017,761,075 | 24.3        | 110,830,290 | 5.8   |
|         |         | 3. その他医業収益       | 115,173,879   | 1.5           | 126,394,150   | 1.5         | 11,220,271  | 9.7   |
|         |         | 4. 他会計負担金        | 49,870,000    | 0.6           | 49,870,000    | 0.6         | 0           | 0.0   |
|         |         | 小 計              | 6,943,269,091 | 88.7          | 7,377,145,029 | 88.7        | 433,875,938 | 6.2   |
|         | 医業外収益   | 1. 受取利息及び配当金     | 2,586,379     | 0.0           | 2,023,611     | 0.0         | △562,768    | △21.8 |
|         |         | 2. 他会計補助金        | 149,978,000   | 1.9           | 142,499,000   | 1.7         | △7,479,000  | △5.0  |
|         |         | 3. 長期前受金戻入額      | 170,929,750   | 2.2           | 177,682,282   | 2.1         | 6,752,532   | 4.0   |
|         |         | 4. 補助金           | 379,168,921   | 4.9           | 458,795,103   | 5.5         | 79,626,182  | 21.0  |
|         |         | 5. 他会計負担金        | 143,177,513   | 1.8           | 120,638,184   | 1.5         | △22,539,329 | △15.7 |
|         |         | 6. その他医業外収益      | 36,668,068    | 0.5           | 39,861,429    | 0.5         | 3,193,361   | 8.7   |
|         | 小 計     | 882,508,631      | 11.3          | 941,499,609   | 11.3          | 58,990,978  | 6.7         |       |
|         | 特別利益    | 1. 過年度損益修正益      | 1,813,517     | 0.0           | 144,274       | 0.0         | △1,669,243  | △92.0 |
|         |         | 2. その他特別利益       | 10,586        | 0.0           | 391,100       | 0.0         | 380,514     | 大幅増   |
|         |         | 小 計              | 1,824,103     | 0.0           | 535,374       | 0.0         | △1,288,729  | △70.7 |
| 計 (総収益) |         | 7,827,601,825    | 100.0         | 8,319,180,012 | 100.0         | 491,578,187 | 6.3         |       |
| 費 用     | 医業費用    | 1. 給与費           | 3,684,509,858 | 47.1          | 3,758,692,334 | 45.3        | 74,182,476  | 2.0   |
|         |         | 2. 材料費           | 1,928,261,228 | 24.7          | 2,091,030,380 | 25.2        | 162,769,152 | 8.4   |
|         |         | 3. 経費            | 1,260,838,985 | 16.1          | 1,427,105,036 | 17.2        | 166,266,051 | 13.2  |
|         |         | 4. 減価償却費         | 502,567,065   | 6.5           | 506,717,437   | 6.1         | 4,150,372   | 0.8   |
|         |         | 5. 資産減耗費         | 5,046,296     | 0.1           | 20,591,228    | 0.2         | 15,544,932  | 308.0 |
|         |         | 6. 研究研修費         | 25,376,615    | 0.3           | 24,781,656    | 0.3         | △594,959    | △2.3  |
|         |         | 小 計              | 7,406,600,047 | 94.8          | 7,828,918,071 | 94.3        | 422,318,024 | 5.7   |
|         | 医業外費用   | 1. 支払利息及び企業債取扱諸費 | 39,437,595    | 0.5           | 37,948,128    | 0.5         | △1,489,467  | △3.8  |
|         |         | 2. 長期前払消費税償却費    | 14,903,969    | 0.2           | 14,903,969    | 0.2         | 0           | 0.0   |
|         |         | 3. 雑損失           | 311,869,870   | 4.0           | 357,773,885   | 4.3         | 45,904,015  | 14.7  |
|         | 小 計     | 366,211,434      | 4.7           | 410,625,982   | 5.0           | 44,414,548  | 12.1        |       |
|         | 特別損失    | 1. 過年度損益修正損      | 41,954,249    | 0.5           | 55,837,164    | 0.7         | 13,882,915  | 33.1  |
|         |         | 2. その他特別損失       | 0             | 0.0           | 0             | 0.0         | 0           | —     |
|         |         | 小 計              | 41,954,249    | 0.5           | 55,837,164    | 0.7         | 13,882,915  | 33.1  |
|         | 計 (総費用) |                  | 7,814,765,730 | 100.0         | 8,295,381,217 | 100.0       | 480,615,487 | 6.2   |
| 当年度純利益  |         | 12,836,095       | —             | 23,798,795    | —             | 10,962,700  | 85.4        |       |

## 収益及び費用の内訳

収益構成( 8,319,180 千円)



費用構成 ( 8,295,381 千円)



## 別表 2-1

## 経営分析比率表

| 分析項目                | 算出基礎<br>(令和3年度 中津市 単位:千円)  | 比較    |       |        | 説明   |
|---------------------|--|-------|-------|--------|--|
|                     |  | 中津市   |       | 類似団体   |  |
|                     |  | 3年度   | 2年度   | 2年度    |  |
| 1. 流動資産構成比率         | $\frac{\text{流動資産 ( 3,251,047 )}}{\text{総資産 ( 12,707,913 )}} \times 100$   | 25.6  | 41.4  | 25.4   | 総資産に占める流動資産の割合を示すもので、この比率が高いほど流動性は良好である。                   |
| 2. 固定負債構成比率         | $\frac{\text{固定負債 ( 4,119,707 )}}{\text{総資本 ( 12,707,913 )}} \times 100$   | 32.4  | 31.5  | 59.9   | 総資本に対する固定負債の占める割合で、この比率が低いほど経営が安定しているといえる。                 |
| 3. 自己資本構成比率         | $\frac{\text{資本金 ( 5,730,743 )} + \text{剰余金 ( 253,615 )} + \text{評価差額等 ( 0 )} + \text{繰延収益 ( 1,424,575 )}}{\text{総資本 ( 12,707,913 )}} \times 100$        | 58.3  | 61.3  | 14.7   | 資本総額とこれを構成する自己資本の関係を示すもので、この比率が高いほど経営の安全性は大きいものといえる。       |
| 4. 固定資産対長期資本比率      | $\frac{\text{固定資産 ( 9,456,866 )}}{\text{資本金 ( 5,730,743 )} + \text{剰余金 ( 253,615 )} + \text{繰延収益 ( 1,424,575 )} + \text{固定負債 ( 4,119,707 )}} \times 100$ | 82.0  | 63.2  | 101.6  | 固定資産の調達、自己資本と固定負債の範囲内で行われているかを示すもので、100%以下が望ましい。           |
| 5. 固定比率             | $\frac{\text{固定資産 ( 9,456,866 )}}{\text{資本金 ( 5,730,743 )} + \text{剰余金 ( 253,615 )} + \text{評価差額等 ( 0 )} + \text{繰延収益 ( 1,424,575 )}} \times 100$        | 127.6 | 95.6  | △336.0 | 固定資産が自己資本によって賄われるべきであるとする企業財政上の原則から、100%以下が望ましい。           |
| 6. 流動比率             | $\frac{\text{流動資産 ( 3,251,047 )}}{\text{流動負債 ( 1,179,273 )}} \times 100$   | 275.7 | 572.9 | 113.7  | 短期債務に対して応ずべき流動資産が十分あるかを示し、理想比率は200%以上。                     |
| 7. 酸性試験比率<br>(当座比率) | $\frac{\text{現金預金 ( 1,992,851 )} + \text{有価証券 ( 0 )} + \text{未収金 ( 1,245,312 )} - \text{貸倒引当金 ( 354 )}}{\text{流動負債 ( 1,179,273 )}} \times 100$           | 274.6 | 569.3 | 114.1  | 当座資産と流動負債とを対比させたもので、100%以上が望ましい。                           |
| 8. 総資本回転率           | $\frac{\text{医業収益 ( 7,377,146 )}}{\text{平均総資本 ( 12,469,691 )}}$  | 0.6   | 0.6   | 0.6    | 総資本の活動能率を示すもので、この比率が高いほど投下資本に比べ営業活動が活発なことを示す。              |
| 9. 固定資産回転率          | $\frac{\text{医業収益 ( 7,377,146 )}}{\text{平均固定資産 ( 8,313,248 )}}$  | 0.9   | 0.9   | 0.8    | 固定資産の稼働率をみるもので、投下された設備利用の適否を表し、この比率が高いほど良好である。             |
| 10. 流動資産回転率         | $\frac{\text{医業収益 ( 7,377,146 )}}{\text{平均流動資産 ( 4,156,443 )}}$  | 1.8   | 1.4   | 2.8    | 短期資産の活動状況を示し、この比率が高いほど収益の回収が早く、健全性を示す。                     |
| 11. 総資本利益率          | $\frac{\text{当年度経常利益 ( 79,102 )}}{\text{平均総資本 ( 12,469,691 )}} \times 100$   | 0.6   | 0.4   | 4.6    | この比率は、企業の収益性を判断するもので、この比率が高いほど企業の成績が良好である。                 |
| 12. 総収支比率           | $\frac{\text{総収益 ( 8,319,181 )}}{\text{総費用 ( 8,295,382 )}} \times 100$   | 100.3 | 100.2 | 107.2  | 総収益と総費用とを対比して、収益と費用の総合的な関連を示すものである。比率は高いほど良く、通常は100%以上である。 |
| 13. 医業収支比率          | $\frac{\text{医業収益 ( 7,377,146 )}}{\text{医業費用 ( 7,828,918 )}} \times 100$   | 94.2  | 93.7  | 61.2   | 医業収益と医業費用とを対比して、業務活動の能率を示すものであり、比率は高いほど良く、通常は、100%以上である。   |

別表 2-2

経営分析比率表

| 分析項目             | 算出基礎<br>(令和3年度 中津市 単位:千円)   | 比較    |       |       | 説明  |
|------------------|---|-------|-------|-------|---|
|                  |   | 中津市   |       | 類似団体  |   |
|                  |   | 3年度   | 2年度   | 2年度   |   |
| 14. 経常収支比率       | $\frac{\text{医業収益 (7,377,146)} + \text{医業外収益 (941,500)}}{\text{医業費用 (7,828,918)} + \text{医業外費用 (410,626)}} \times 100$              | 101.0 | 100.7 | 106.6 | 企業の収益性(黒字赤字の判断基準)を示すもので、100%を超える数値が高いほど経営状態が良好といえる。 |
| 15. 職員給与費対医業収益比率 | $\frac{\text{職員給与費 (3,726,142)}}{\text{医業収益 (7,377,146)}} \times 100$   | 50.5  | 52.6  | 56.4  | 医業収益に対する職員給与費の割合を示すもので、一般的に50%以下が望ましい。              |
| 16. 利子負担率        | $\frac{\text{支払利息(企業債分) (37,948)} + \text{企業債取扱諸費 (0)}}{\text{借入金 (0)} + \text{企業債 (3,440,077)} + \text{リース債務 (7,554)}} \times 100$ | 1.1   | 1.2   | 1.5   | 損益計算書が示す支払利子等を、貸借対照表に示された有利子負債と比較することにより計算したものである。  |

(注) 1. 上記表の数値は、類似団体との比較のために地方公営企業決算状況調査(決算統計)の数値を使用している。

2. 平均=(期首+期末)/2、総資本=負債+資本

3. 類似団体=地方公営企業年鑑に記載されている、一般病床数250床程度の以下の4病院の平均。

(1)青森県弘前市立病院(250床)、(2)大阪府貝塚市貝塚病院(249床)、(3)兵庫県西宮市中央病院(257床)、(4)兵庫県川西市立川西病院(250床)

## 別表 3

キャッシュ・フロー計算書  
(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位：円)

| 区 分                     | 金 額             |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 業務活動によるキャッシュ・フロー     |                 |
| 当年度純利益                  | 23,798,795      |
| 減価償却費                   | 506,717,437     |
| 長期前払消費税償却費              | 14,903,969      |
| 長期貸付金返還免除額              | 245,000         |
| 退職給付引当金の増減額(△は減少)       | 193,501,278     |
| 賞与引当金等の増減額(△は減少)        | △ 25,111,500    |
| 長期前受金戻入額                | △ 177,682,282   |
| 受取利息及び受取配当金             | △ 2,023,611     |
| 支払利息及び企業債取扱諸費           | 37,948,128      |
| 固定資産除却費                 | 20,062,526      |
| 未収金の増減額(△は増加)           | 63,400,779      |
| たな卸資産の増減額(△は増加)         | 19,536,508      |
| その他流動資産の増減額(△は増加)       | 613,337         |
| 未払金の増減額(△は減少)           | 33,267,188      |
| その他流動負債の増減額(△は減少)       | △ 453,260       |
| 小 計                     | 708,724,292     |
| 受取利息及び受取配当金             | 2,023,611       |
| 支払利息及び企業債取扱諸費           | △ 37,948,128    |
| 計 (A)                   | 672,799,775     |
| 2. 投資活動によるキャッシュ・フロー     |                 |
| 有形固定資産の取得による支出          | △ 100,560,436   |
| 国庫補助金等による収入             | 15,802,000      |
| 一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入 | 44,940,019      |
| 寄附金による収入                | 2,000,000       |
| 基金積立による支出               | △ 2,495,541,681 |
| 長期前払消費税勘定計上額            | 0               |
| 計 (B)                   | △ 2,533,360,098 |
| 3. 財務活動によるキャッシュ・フロー     |                 |
| 企業債の発行による収入             | 260,400,000     |
| 企業債の償還による支出             | △ 125,496,419   |
| 出資金による収入                | 1,065,390       |
| リース債務支払額                | △ 2,649,957     |
| 計 (C)                   | 133,319,014     |
| 資金増加額(又は減少額) (A+B+C)    | △ 1,727,241,309 |
| 資金期首残高                  | 3,720,092,320   |
| 資金期末残高                  | 1,992,851,011   |





# 診療所事業 (小児救急センター)

# 1. 事業の概要

## (1) 業務の実績

中津市民病院の小児科診療体制の変更に伴い、近隣医師会や関連大学などの協力を得て、平成29年4月1日より中津市立小児救急センターとして運営を開始している。これにより、夜間・休日の急患対応について小児救急センターが初期診療を行い、緊急入院が必要な状態と判断した場合は、中津市民病院がその後方の二次医療を受け持つという機能分担システムの導入により小児救急医療体制を確保し、大分県北部から福岡県京築地区唯一の公的機関として地域の小児医療を担っている。

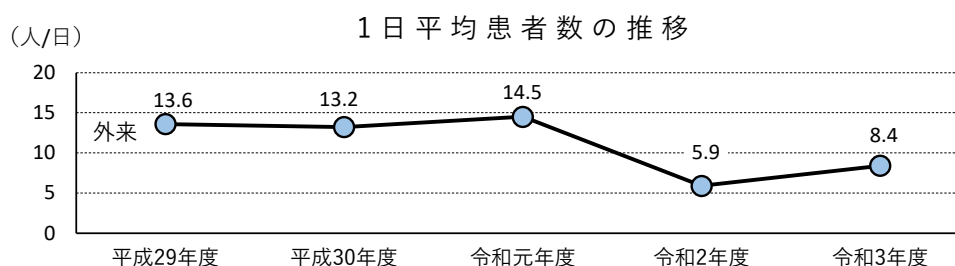
中津市立小児救急センターの本年度の利用状況は延患者数 3,078 人で、前年度に比べ 918 人(42.5%)増加し、1日平均患者数は 8.4 人で前年度に比べ 2.5 人増加している。

施設の利用状況

(単位：人、日、%)

| 区分<br>年度 | 延外来患者 |      |         |
|----------|-------|------|---------|
|          | 延患者数  | 診療日数 | 1日平均患者数 |
| 令和3年度    | 3,078 | 365  | 8.4     |
| 令和2年度    | 2,160 | 365  | 5.9     |
| 増減       | 918   | 0    | 2.5     |
| 増減率      | 42.5  | 0.0  | 42.4    |

(小児救急センター提出資料)



## (2) 職員数の状況

年度末における職員数は 2 人で、前年度との増減はない。

職員数の状況

(単位：人)

| 区分<br>年度 | 医療職1<br>(医師) | 医療職2<br>(薬剤師) | 医療職3<br>(看護師) | 医療職4<br>(技能労務員) | 行政職 | 合計 |
|----------|--------------|---------------|---------------|-----------------|-----|----|
| 令和3年度    | 1            | 1             | 0             | 0               | 0   | 2  |
| 令和2年度    | 1            | 1             | 0             | 0               | 0   | 2  |
| 増減       | 0            | 0             | 0             | 0               | 0   | 0  |

## 2. 予算及び決算の状況

### (1) 収益的収入及び支出

診療所事業収益は、決算額 96,346,871 円で、収入率は 84.1%である。このうち医業収益は、決算額 36,358,449 円であり、収入率は 65.8%である。

診療所事業費用は、決算額 104,848,303 円であり、執行率は 92.6%となっている。このうち特別損失は、決算額 35,120 円となっている。

以上のとおり、収益的収支については、差引 8,501,432 円の赤字決算となっている。

| 収入          |    | 収益的収入及び支出   |            |      |             |    |
|-------------|----|-------------|------------|------|-------------|----|
| 区分          |    | 予算額         | 決算額        | 収入率  | 予算額と決算額の差   | 備考 |
| 科目          |    |             |            |      |             |    |
| 第1款 診療所事業収益 |    | 114,541,000 | 96,346,871 | 84.1 | △18,194,129 |    |
| 第1項 医業収益    |    | 55,297,000  | 36,358,449 | 65.8 | △18,938,551 |    |
| 第2項 医業外収益   |    | 59,243,000  | 59,147,670 | 99.8 | △95,330     |    |
| 第3項 特別利益    |    | 1,000       | 840,752    | 大幅増  | 839,752     |    |
| 令和2年度       |    | 114,434,000 | 92,535,236 | 80.9 | △21,898,764 |    |
| 前年度<br>対比   | 金額 | 107,000     | 3,811,635  | —    | —           |    |
|             | 伸率 | 0.1%        | 4.1%       | —    | —           |    |

| 支出          |    | 収益的収入及び支出   |             |      |            |    |
|-------------|----|-------------|-------------|------|------------|----|
| 区分          |    | 予算額         | 決算額         | 執行率  | 不用額        | 備考 |
| 科目          |    |             |             |      |            |    |
| 第1款 診療所事業費用 |    | 113,287,000 | 104,848,303 | 92.6 | 8,438,697  |    |
| 第1項 医業費用    |    | 110,985,000 | 104,813,183 | 94.4 | 6,171,817  |    |
| 第2項 医業外費用   |    | 2,000       | 0           | 0.0  | 2,000      |    |
| 第3項 特別損失    |    | 300,000     | 35,120      | 11.7 | 264,880    |    |
| 第4項 予備費     |    | 2,000,000   | 0           | 0.0  | 2,000,000  |    |
| 令和2年度       |    | 113,408,000 | 102,874,451 | 90.7 | 10,533,549 |    |
| 前年度<br>対比   | 金額 | △121,000    | 1,973,852   | —    | —          |    |
|             | 伸率 | △0.1%       | 1.9%        | —    | —          |    |
| 収支差引額       |    | 1,254,000   | △8,501,432  | —    | —          | —  |

## (2) 資本的収入及び支出

資本的収入及び資本的支出は、決算額 0 円となっている。

収入 資本的収入及び支出 (単位：円、%)

| 科目           |     | 区分 | 予算額 | 決算額 | 収入率 | 予算額と<br>決算額の差 | 備考 |
|--------------|-----|----|-----|-----|-----|---------------|----|
| 第1款 資本的収入    |     |    | 0   | 0   | -   | 0             |    |
| 第1項 その他資本的収入 |     |    | 0   | 0   | -   | 0             |    |
| 令和2年度        |     |    | 0   | 0   | -   | 0             |    |
| 前年度<br>対 比   | 金額  |    | 0   | 0   | -   | -             |    |
|              | 伸 率 |    | -   | -   | -   | -             |    |

支出 (単位：円、%)

| 科目         |     | 区分 | 予算額        | 決算額 | 執行率 | 不用額       | 備考 |
|------------|-----|----|------------|-----|-----|-----------|----|
| 第1款 資本的支出  |     |    | 3,000,000  | 0   | 0.0 | 3,000,000 |    |
| 第1項 建設改良費  |     |    | 2,000,000  | 0   | 0.0 | 2,000,000 |    |
| 第2項 予 備 費  |     |    | 1,000,000  | 0   | 0.0 | 1,000,000 |    |
| 令和2年度      |     |    | 3,000,000  | 0   | 0.0 | 3,000,000 |    |
| 前年度<br>対 比 | 金額  |    | 0          | 0   | -   | -         |    |
|            | 伸 率 |    | 0.0%       | -   | -   | -         |    |
| 収支差引額      |     |    | △3,000,000 | 0   | -   | -         |    |

補てん財源調書 (単位：円)

| 科目          |  | 区分 | 前年度末残高    | 本年度増加額 | 本年度減少額<br>(補てん額) | 本年度末残高     |
|-------------|--|----|-----------|--------|------------------|------------|
| 消費税資本的収支調整額 |  |    | 0         | 0      | 0                | 0          |
| 過年度損益勘定留保資金 |  |    | 0         | 0      | 0                | 0          |
| 利 益 剰 余 金   |  |    | 3,648,607 | 0      | 8,501,432        | △4,852,825 |
| 減 債 積 立 金   |  |    | 0         | 0      | 0                | 0          |
| 利 益 積 立 金   |  |    | 0         | 0      | 0                | 0          |
| 建設改良積立金     |  |    | 3,648,607 | 0      | 3,648,607        | 0          |
| 未 処 理 欠 損 金 |  |    | 0         | 0      | 4,852,825        | △4,852,825 |
| 合 計         |  |    | 3,648,607 | 0      | 8,501,432        | △4,852,825 |

※消費税資本的収支調整額：消費税及び地方消費税は、収益的収支と資本的収支の差額分を一括して計算し収益的収入・支出としている。このため、資本的収支上に消費税等の差引額は反映されていないことから、消費税等に係る資本的収支の差引額を補てん財源として充てるもの。

※損益勘定留保資金：現金支出を伴わない減価償却費に相当する額等。

※減債積立金：企業債償還金の財源としての積立金。

※利益積立金：欠損金の補填のための財源としての積立金。

## (3) 建設改良費

建設改良費は、予算額 2,000,000 円に対し決算額 0 円である。

### 3. 経営成績

#### (1) 医業損益

医業収益は 36,358,449 円で、前年度に比べ 13,406,213 円(58.4%)増加している。これは主に、外来収益が患者数の増加により 13,406,123 円(58.4%)増加したためである。

医業費用は 104,813,183 円で、前年度に比べ 2,023,638 円(2.0%)増加している。これは主に、材料費が医療備品単価の高騰及び患者数の増加に伴い 439,766 円(64.2%)、経費が医事業務委託料の増加等に伴い 1,698,169 円(2.5%)それぞれ増加したためである。

これにより医業損益は 68,454,734 円の損失となり、前年度に比べ 11,382,575 円(14.3%)損失が減少している。

なお、比率が高いほど良いとされる医業収支比率は 34.7%で、前年度の 22.3%に比べ 12.4 ポイント上昇している。(別表 2-1)

また、比率が低い方が望ましいとされる医業収益に対する職員給与費の割合を示す職員給与費対医業収益比率は 88.9%で、医業収益の増により前年度の 141.4%に比べ 52.5 ポイント減少している。(別表 2-2)

#### (2) 医業外損益

医業外収益は 59,147,670 円で、前年度に比べ 10,435,330 円(15.0%)減少している。これは主に、他会計補助金が一般会計補助金の増加に伴い 20,167,000 円(81.2%)増加したものの、その他医業外収益が医師会助成金の終了に伴い 29,441,386 円(100.0%)減少したためである。

医業外費用は前年度と変わらず 0 円である。

これにより医業外損益は 59,147,670 円の利益となり、前年度に比べ 10,435,330 円(15.0%)利益が減少している。

#### (3) 経常損益

医業損益と医業外損益を合計した経常損益は 9,307,064 円の損失となり、前年度に比べ 947,245 円(9.2%)損失が減少している。

なお、100%を超える数値が高いほど経営状態が良好とされる経常収支比率は 91.1%で前年度の 90.0%に比べ 1.1 ポイント上昇している。(別表 2-2)

#### (4) 特別損益

特別利益は 840,752 円で、前年度に比べ 840,752 円(皆増)増加している。

特別損失は 35,120 円で、前年度に比べ 49,786 円(58.6%)減少している。

#### (5) 当年度損益

当年度の損益は、総収益と総費用を差し引きした 8,501,432 円の純損失となっており、前年度に比べ 1,837,783 円(17.8%)損失が減少している。

なお、通常 100%以上とされる総収益と総費用を対比した総収支比率は 91.9%で、前年度の 89.9%に比べ 2.0 ポイント上昇している。(別表 2-1)

## 比較損益計算書

(単位：円、%)

| 区分                       | 年度 | 令和 2 年度     |                        |                     | 令和 3 年度     |                        |                     | 増 減         |        |
|--------------------------|----|-------------|------------------------|---------------------|-------------|------------------------|---------------------|-------------|--------|
|                          |    | 金 額         | 総収益又は<br>総費用に<br>対する比率 | 医業収益<br>に対する<br>比 率 | 金 額         | 総収益又は<br>総費用に<br>対する比率 | 医業収益<br>に対する<br>比 率 | 金 額         | 比 率    |
| 1 医 業 収 益                |    | 22,952,236  | 24.8                   | 100.0               | 36,358,449  | 37.7                   | 100.0               | 13,406,213  | 58.4   |
| (1) 外 来 収 益              |    | 22,952,176  | 24.8                   | 100.0               | 36,358,299  | 37.7                   | 100.0               | 13,406,123  | 58.4   |
| (2) その他医業収益              |    | 60          | 0.0                    | 0.0                 | 150         | 0.0                    | 0.0                 | 90          | 150.0  |
| 2 医 業 費 用                |    | 102,789,545 | 99.9                   | 447.8               | 104,813,183 | 100.0                  | 288.3               | 2,023,638   | 2.0    |
| (1) 給 与 費                |    | 32,864,730  | 31.9                   | 143.2               | 32,756,183  | 31.3                   | 90.1                | △108,547    | △0.3   |
| (2) 材 料 費                |    | 684,493     | 0.7                    | 3.0                 | 1,124,259   | 1.1                    | 3.1                 | 439,766     | 64.2   |
| (3) 経 費                  |    | 68,154,572  | 66.3                   | 296.9               | 69,852,741  | 66.6                   | 192.1               | 1,698,169   | 2.5    |
| (4) 減 価 償 却 費            |    | 1,080,000   | 1.0                    | 4.7                 | 1,080,000   | 1.0                    | 3.0                 | 0           | 0.0    |
| (5) 研 究 研 修 費            |    | 5,750       | 0.0                    | 0.0                 | 0           | 0.0                    | 0.0                 | △5,750      | 皆減     |
| A 医 業 損 益<br>(1 - 2)     |    | △79,837,309 | —                      | △347.8              | △68,454,734 | —                      | △188.3              | 11,382,575  | 14.3   |
| 3 医 業 外 収 益              |    | 69,583,000  | 75.2                   | 303.2               | 59,147,670  | 61.4                   | 162.7               | △10,435,330 | △15.0  |
| (1) 受取利息及び配当金            |    | 212         | 0.0                    | 0.0                 | 268         | 0.0                    | 0.0                 | 56          | 26.4   |
| (2) 他 会 計 補 助 金          |    | 24,833,000  | 26.8                   | 108.2               | 45,000,000  | 46.7                   | 123.8               | 20,167,000  | 81.2   |
| (3) 長期前受金戻入額             |    | 1,080,000   | 1.2                    | 4.7                 | 1,080,000   | 1.1                    | 3.0                 | 0           | 0.0    |
| (4) 補 助 金                |    | 1,000,000   | 1.1                    | 4.4                 | 0           | 0.0                    | 0.0                 | △1,000,000  | 皆減     |
| (5) 他 会 計 負 担 金          |    | 13,222,000  | 14.3                   | 57.6                | 13,061,000  | 13.6                   | 35.9                | △161,000    | △1.2   |
| (6) その他医業外収益             |    | 29,447,788  | 31.8                   | 128.3               | 6,402       | 0.0                    | 0.0                 | △29,441,386 | △100.0 |
| 4 医 業 外 費 用              |    | 0           | 0.0                    | 0.0                 | 0           | 0.0                    | 0.0                 | 0           | —      |
| (1) 雑 損 失                |    | 0           | 0.0                    | 0.0                 | 0           | 0.0                    | 0.0                 | 0           | —      |
| B 医 業 外 損 益<br>(3 - 4)   |    | 69,583,000  | —                      | 303.2               | 59,147,670  | —                      | 162.7               | △10,435,330 | △15.0  |
| C 経 常 損 益<br>(A+B)       |    | △10,254,309 | —                      | △44.7               | △9,307,064  | —                      | △25.6               | 947,245     | 9.2    |
| 5 特 別 利 益                |    | 0           | 0.0                    | 0.0                 | 840,752     | 0.9                    | 2.3                 | 840,752     | 皆増     |
| (1) 過年度損益修正益             |    | 0           | 0.0                    | 0.0                 | 840,752     | 0.9                    | 2.3                 | 840,752     | 皆増     |
| 6 特 別 損 失                |    | 84,906      | 0.1                    | 0.4                 | 35,120      | 0.0                    | 0.1                 | △49,786     | △58.6  |
| (1) 過年度損益修正損             |    | 84,906      | 0.1                    | 0.4                 | 35,120      | 0.0                    | 0.1                 | △49,786     | △58.6  |
| D 当 年 度 純 利 益<br>(C+5-6) |    | △10,339,215 | —                      | △45.0               | △8,501,432  | —                      | △23.4               | 1,837,783   | 17.8   |
| E その他未処分利益剰余金変動額         |    | 0           | —                      | 0.0                 | 0           | —                      | 0.0                 | 0           | —      |
| 当 年 度 未 処 理 欠 損 金        |    | △10,339,215 | —                      | △45.0               | △8,501,432  | —                      | △23.4               | 1,837,783   | 17.8   |
| 当 年 度 未 処 分 利 益 剰 余 金    |    | 0           | —                      | 0.0                 | 0           | —                      | 0.0                 | 0           | —      |

※総収益、総費用は別表 1 参照

[令和 3 年度 総収益 96,346,871 円 総費用 104,848,303 円]  
[令和 2 年度 総収益 92,535,236 円 総費用 102,874,451 円]

## 4. 財政状態

### (1) 資 産

資産合計は12,083,345円で、前年度末に比べ9,930,916円(45.1%)減少している。これは、固定資産が1,080,000円(64.3%)、流動資産が8,850,916円(43.5%)それぞれ減少したためである。

固定資産は、器械備品減価償却累計額の増により有形固定資産が減少している。

流動資産は主に、現金預金が本年度収支に伴い7,510,860円(50.0%)、未収金が現年度医業未収金の減により1,344,045円(27.3%)それぞれ減少している。

未収金3,580,274円のうち患者未収金は、現年度分6,880円である。未収金の年度内回収について、引き続き一層の努力をされるよう要望する。

### (2) 負債及び資本

固定負債は、退職給付引当金の引当金1,177,495円で、前年度末に比べ455,000円(63.0%)増加している。

流動負債は15,158,675円で、前年度末に比べ804,484円(5.0%)減少している。これは主に、未払金が998,937円(96.2%)減少したためである。引当金は2,182,000円で、その内訳は、職員の賞与引当金1,826,000円、法定福利引当金356,000円である。

なお、短期債務に対する支払能力を示す流動比率は75.8%で、流動資産の減少により前年度の127.4%に比べ51.6ポイント下降し、200%以上とされる理想比率を大幅に下回っている。(別表2-1)

また、流動資産のうち現金預金及び未収金などの当座資産と流動負債を対比させた酸性試験比率(当座比率)は73.2%で、現金預金の減少により前年度の125.0%に比べ51.8ポイント下降し、100%以上とされる理想比率を下回っている。(別表2-1)

繰延収益は600,000円で、長期前受金収益化累計額の減少により、前年度末に比べ1,080,000円(64.3%)減少している。

比率が低いほど経営が安定しているとされる総資本に対する固定負債の占める割合を示す固定負債構成比率は9.7%で、前年度の3.3%に比べ6.4ポイント上昇している。(別表2-1)

### (3) 剰 余 金

剰余金は利益剰余金△4,852,825円で、前年度末に比べ8,501,432円(233.0%)減少している。この内訳は、建設改良積立金3,648,607円、当年度未処理欠損金△8,501,432円である。なお、利益積立金については前年度決算において0円になったため、当年度未処理欠損金については建設改良積立金から3,648,607円繰入予定である。

### (4) キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー計算書は財務諸表のひとつで、会計期間内の資金の動きを表したものであり、3つに細分化される。(別表3)

業務活動によるキャッシュ・フローは、企業の主たる営業活動で発生した現金や容易に換金可能な預金(以下現金等)の増減を表しており、本年度は△7,510,860円である。

投資活動によるキャッシュ・フローは0円である。

財務活動によるキャッシュ・フローは、企業活動に必要な資金の調達や企業債などの返

済に関する現金等の増減を表したものであり、本年度は0円である。

以上の3区分から、本年度の資金期末残高は7,517,384円で、貸借対照表中の現金及び預金の額と一致しており、この資金期末残高(現金250,000円、普通預金7,267,384円)と出納取扱金融機関の当年度末預金残高等とを照合した結果、正確であることを確認した。(別表3)



## 比較貸借対照表

(単位：円、%)

| 区 分                 | 令 和 2 年 度    |        | 令 和 3 年 度   |       | 増 減        |        |
|---------------------|--------------|--------|-------------|-------|------------|--------|
|                     | 金 額          | 構 成 比  | 金 額         | 構 成 比 | 金 額        | 比 率    |
| 1 固 定 資 産           | 1,680,000    | 7.6    | 600,000     | 5.0   | △1,080,000 | △64.3  |
| (1) 有 形 固 定 資 産     | 1,680,000    | 7.6    | 600,000     | 5.0   | △1,080,000 | △64.3  |
| イ 器 械 備 品           | 1,680,000    | 7.6    | 600,000     | 5.0   | △1,080,000 | △64.3  |
| 2 流 動 資 産           | 20,334,261   | 92.4   | 11,483,345  | 95.0  | △8,850,916 | △43.5  |
| (1) 現 金 預 金         | 15,028,244   | 68.3   | 7,517,384   | 62.2  | △7,510,860 | △50.0  |
| (2) 未 収 金           | 4,924,319    | 22.4   | 3,580,274   | 29.6  | △1,344,045 | △27.3  |
| (3) 貯 蔵 品           | 381,698      | 1.7    | 385,687     | 3.2   | 3,989      | 1.0    |
| 資 産 合 計             | 22,014,261   | 100.0  | 12,083,345  | 100.0 | △9,930,916 | △45.1  |
| 3 固 定 負 債           | 722,495      | 3.3    | 1,177,495   | 9.7   | 455,000    | 63.0   |
| (1) 引 当 金           | 722,495      | 3.3    | 1,177,495   | 9.7   | 455,000    | 63.0   |
| 4 流 動 負 債           | 15,963,159   | 72.5   | 15,158,675  | 125.5 | △804,484   | △5.0   |
| (1) 未 払 金           | 1,037,888    | 4.7    | 38,951      | 0.3   | △998,937   | △96.2  |
| (2) 未 払 費 用         | 11,909,069   | 54.1   | 12,490,913  | 103.4 | 581,844    | 4.9    |
| (3) 預 り 金           | 872,202      | 4.0    | 446,811     | 3.7   | △425,391   | △48.8  |
| (4) 引 当 金           | 2,144,000    | 9.7    | 2,182,000   | 18.1  | 38,000     | 1.8    |
| 5 繰 延 収 益           | 1,680,000    | 7.6    | 600,000     | 5.0   | △1,080,000 | △64.3  |
| (1) 長 期 前 受 金       | 6,000,000    | 27.2   | 6,000,000   | 49.7  | 0          | 0.0    |
| (2) 長期前受金収益化累計額     | △ 4,320,000  | △ 19.6 | △ 5,400,000 | △44.7 | △1,080,000 | △25.0  |
| 6 資 本 金             | 0            | 0.0    | 0           | 0.0   | 0          | —      |
| (1) 資 本 金           | 0            | 0.0    | 0           | 0.0   | 0          | —      |
| 7 剰 余 金             | 3,648,607    | 16.6   | △ 4,852,825 | △40.2 | △8,501,432 | △233.0 |
| (1) 資 本 剰 余 金       | 0            | 0.0    | 0           | 0.0   | 0          | —      |
| (2) 利 益 剰 余 金       | 3,648,607    | 16.6   | △ 4,852,825 | △40.2 | △8,501,432 | △233.0 |
| イ 利 益 積 立 金         | 3,273,821    | 14.9   | 0           | 0.0   | △3,273,821 | 皆減     |
| ロ 建 設 改 良 積 立 金     | 10,714,001   | 48.7   | 3,648,607   | 30.2  | △7,065,394 | △65.9  |
| ハ 当 年 度 未 処 理 欠 損 金 | △ 10,339,215 | △ 47.0 | △ 8,501,432 | △70.4 | 1,837,783  | 17.8   |
| 当 年 度 純 利 益         | △ 10,339,215 | △ 47.0 | △ 8,501,432 | △70.4 | 1,837,783  | 17.8   |
| 負 債 ・ 資 本 合 計       | 22,014,261   | 100.0  | 12,083,345  | 100.0 | △9,930,916 | △45.1  |

## 5. む す び

以上が令和3年度診療所事業の決算審査の概要である。

患者の利用状況をみると、年間延患者数は3,078人で、前年度に比べ918人(42.5%)増加している。また、1日平均患者数は8.4人で、前年度に比べ2.5人増加している。

次に経営状況についてみると、総収益は96,346,871円で、前年度92,535,236円に比べ3,811,635円(4.1%)増加している。総費用は104,848,303円で、前年度102,874,451円に比べ1,973,852円(1.9%)増加している。この結果、当年度損益は、前年度純損失10,339,215円に比べ1,837,783円(17.8%)損失が減少し、8,501,432円の純損失となっている。

企業の収益性を示す経常収支比率は91.1%で、前年度に比べ1.1ポイント上昇しているものの、理想とする100%を若干下回っている。同様に、業務活動の能率を示す医業収支比率は34.7%で、前年度に比べ12.4ポイント上昇しているものの、理想とする100%を大きく下回っている。

資本的収支についてみると、資本的収入は予算、決算ともに実績はなく、資本的支出は建設改良費2,000,000円の予算に対し決算は実績がなかった。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足した場合の差引額の補てん財源としての利益剰余金の本年度末残高は4,852,825円の未処理欠損金を生じている。

企業債の発行はなく残高もない。

経営面においては、小児救急医療の現状は、全国的に小児科医が減少し、特に夜間の医師の確保等が困難な状況である一方、保護者が育児に関する相談や支援を受けにくい環境にあることから、小児人口の減少に伴わず需要が増大し、医師確保・質の確保等の問題を抱えており、県域を越えた広域での診療体制の構築が効果的な小児救急医療体制の確立の1つであると言われている。また、一般的に採算性の確保が難しいとされている。

中津市立小児救急センターは「なかつ安心づくり」の施策の中で、子どもを産み育てやすい環境を整備して切れ目や隙間のない子育て支援の充実を図っており、小児医療の中核施設として患者や家族の地域での生活を支えている。

このような情勢の中、近隣医師会や関連大学などの協力のもと、中津市立小児救急センターが初期救急、中津市民病院が二次救急を受け持つという役割を明確にし、夜間・休日における小児救急医療提供体制を構築している。

今後も、小児救急医療事業が重要な育児支援策であることを強く認識し、かかりつけ医と連携して「子育て2.0のまちづくり」を目指すため、隣接する中津市民病院と共に、安定的な救急医療を持続的に提供し、安心して子育てができる小児救急医療体制の確立を期待する。

別表 1

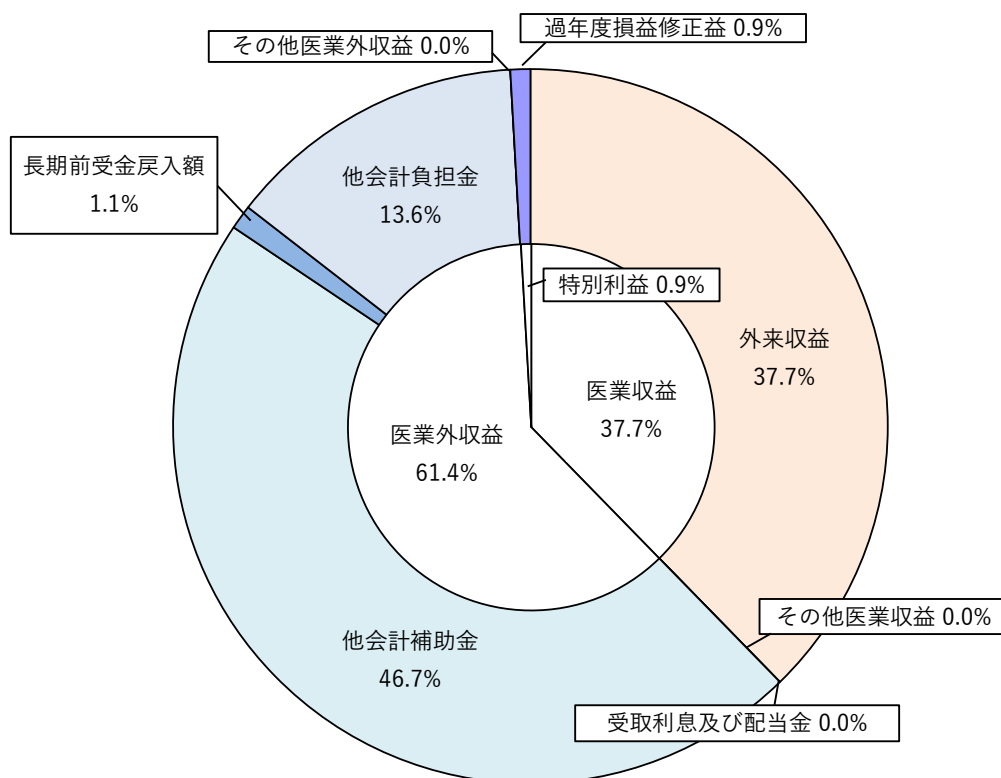
## 収益及び費用の内訳

(単位：円、%)

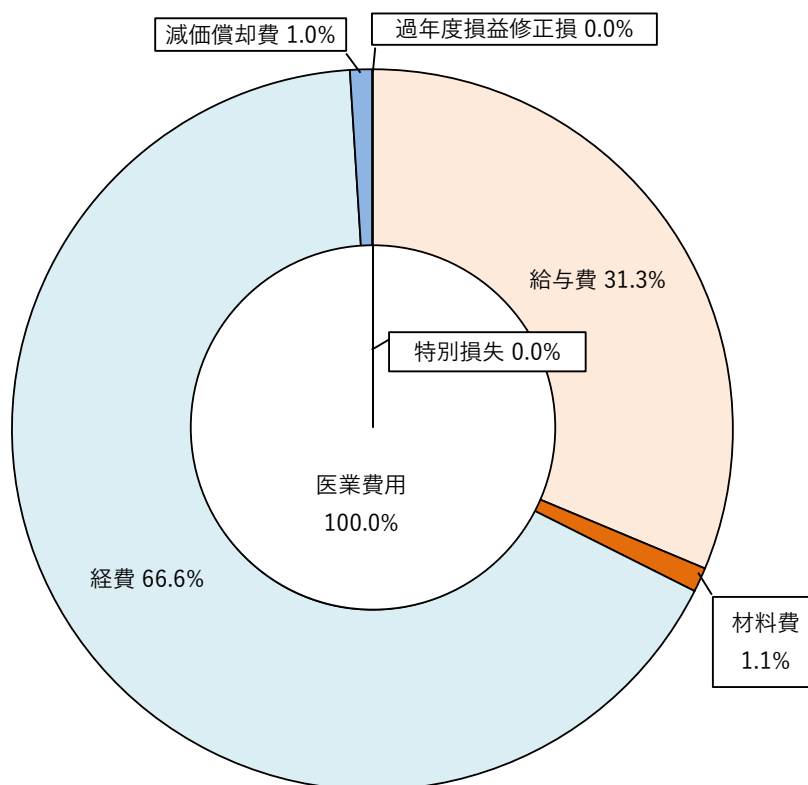
| 区 分 |             | 年 度            | 令和 2 年度     |            | 令和 3 年度     |             | 増 減         |        |
|-----|-------------|----------------|-------------|------------|-------------|-------------|-------------|--------|
|     |             |                | 金 額         | 構成比        | 金 額         | 構成比         | 金 額         | 比 率    |
| 収 益 | 医業収益        | 1. 外 来 収 益     | 22,952,176  | 24.8       | 36,358,299  | 37.7        | 13,406,123  | 58.4   |
|     |             | 2. その他医業収益     | 60          | 0.0        | 150         | 0.0         | 90          | 150.0  |
|     |             | 小 計            | 22,952,236  | 24.8       | 36,358,449  | 37.7        | 13,406,213  | 58.4   |
|     | 医業外収益       | 1. 受取利息及び配当金   | 212         | 0.0        | 268         | 0.0         | 56          | 26.4   |
|     |             | 2. 他 会 計 補 助 金 | 24,833,000  | 26.8       | 45,000,000  | 46.7        | 20,167,000  | 81.2   |
|     |             | 3. 長期前受金戻入額    | 1,080,000   | 1.2        | 1,080,000   | 1.1         | 0           | 0.0    |
|     |             | 4. 補 助 金       | 1,000,000   | 1.1        | 0           | 0.0         | △1,000,000  | 皆減     |
|     |             | 5. 他 会 計 負 担 金 | 13,222,000  | 14.3       | 13,061,000  | 13.6        | △161,000    | △1.2   |
|     |             | 6. その他医業外収益    | 29,447,788  | 31.8       | 6,402       | 0.0         | △29,441,386 | △100.0 |
|     | 小 計         | 69,583,000     | 75.2        | 59,147,670 | 61.4        | △10,435,330 | △15.0       |        |
|     | 特別利益        | 1. 過年度損益修正益    | 0           | 0.0        | 840,752     | 0.9         | 840,752     | 皆増     |
|     |             | 小 計            | 0           | 0.0        | 840,752     | 0.9         | 840,752     | 皆増     |
|     | 計 (総収益)     |                | 92,535,236  | 100.0      | 96,346,871  | 100.0       | 3,811,635   | 4.1    |
| 費 用 | 医業費用        | 1. 給 与 費       | 32,864,730  | 31.9       | 32,756,183  | 31.3        | △108,547    | △0.3   |
|     |             | 2. 材 料 費       | 684,493     | 0.7        | 1,124,259   | 1.1         | 439,766     | 64.2   |
|     |             | 3. 経 費         | 68,154,572  | 66.3       | 69,852,741  | 66.6        | 1,698,169   | 2.5    |
|     |             | 4. 減 価 償 却 費   | 1,080,000   | 1.0        | 1,080,000   | 1.0         | 0           | 0.0    |
|     |             | 5. 研 究 研 修 費   | 5,750       | 0.0        | 0           | 0.0         | △5,750      | 皆減     |
|     |             | 小 計            | 102,789,545 | 99.9       | 104,813,183 | 100.0       | 2,023,638   | 2.0    |
|     | 医業外費用       | 1. 雑 損 失       | 0           | 0.0        | 0           | 0.0         | 0           | —      |
|     |             | 小 計            | 0           | 0.0        | 0           | 0.0         | 0           | —      |
|     | 特別損失        | 1. 過年度損益修正損    | 84,906      | 0.1        | 35,120      | 0.0         | △49,786     | △58.6  |
|     |             | 小 計            | 84,906      | 0.1        | 35,120      | 0.0         | △49,786     | △58.6  |
|     | 計 (総費用)     |                | 102,874,451 | 100.0      | 104,848,303 | 100.0       | 1,973,852   | 1.9    |
|     | 当 年 度 純 利 益 |                | △10,339,215 | —          | △8,501,432  | —           | 1,837,783   | 17.8   |

## 収益及び費用の内訳

収益構成( 96,347 千円)



費用構成 ( 104,848 千円)



別表 2-1

## 経営分析比率表

| 分析項目                | 算出基礎<br>(令和3年度 中津市 単位:千円)  | 比較    |       | 説明   |
|---------------------|--|-------|-------|--|
|                     |  | 中津市   |       |  |
|                     |  | 3年度   | 2年度   |  |
| 1. 流動資産構成比率         | $\frac{\text{流動資産(11,483)}}{\text{総資産(12,083)}} \times 100$  | 95.0  | 92.4  | 総資産に占める流動資産の割合を示すもので、この比率が高いほど流動性は良好である。                   |
| 2. 固定負債構成比率         | $\frac{\text{固定負債(1,177)}}{\text{総資本(12,083)}} \times 100$   | 9.7   | 3.3   | 総資本に対する固定負債の占める割合で、この比率が低いほど経営が安定しているといえる。                 |
| 3. 自己資本構成比率         | $\frac{\text{資本金(0)} + \text{剰余金(△4,853)} + \text{評価差額等(0)} + \text{繰延収益(600)}}{\text{総資本(12,083)}} \times 100$  | △35.2 | 24.2  | 資本総額とこれを構成する自己資本の関係を示すもので、この比率が高いほど経営の安全性は大きいものといえる。       |
| 4. 固定資産対長期資本比率      | $\frac{\text{固定資産(600)}}{\text{資本金(0)} + \text{剰余金(△4,853)} + \text{繰延収益(600)} + \text{固定負債(1,177)}} \times 100$ | △19.5 | 27.8  | 固定資産の調達、自己資本と固定負債の範囲内で行われているかを示すもので、100%以下が望ましい。           |
| 5. 固定比率             | $\frac{\text{固定資産(600)}}{\text{資本金(0)} + \text{剰余金(△4,853)} + \text{評価差額等(0)} + \text{繰延収益(600)}} \times 100$    | △14.1 | 31.5  | 固定資産が自己資本によって賄われるべきであるとする企業財政上の原則から、100%以下が望ましい。           |
| 6. 流動比率             | $\frac{\text{流動資産(11,483)}}{\text{流動負債(15,159)}} \times 100$   | 75.8  | 127.4 | 短期債務に対して応ずべき流動資産が十分あるかを示し、理想比率は200%以上。                     |
| 7. 酸性試験比率<br>(当座比率) | $\frac{\text{現金預金(7,518)} + \text{未収金(3,580)} - \text{貸倒引当金(0)}}{\text{流動負債(15,159)}} \times 100$                | 73.2  | 125.0 | 当座資産と流動負債とを対比させたもので、100%以上が望ましい。                           |
| 8. 総資本回転率           | $\frac{\text{医業収益(36,358)}}{\text{平均総資本(17,049)}}$   | 2.1   | 0.9   | この回転率は、総資本の活動能力を示すもので、この比率が高いほど投下資本に比べ営業活動が活発なことを示す。       |
| 9. 固定資産回転率          | $\frac{\text{医業収益(36,358)}}{\text{平均固定資産(1,140)}}$   | 31.9  | 10.3  | 固定資産の稼働率をみるもので、投下された設備利用の適否を表し、この比率が高いほど良好である。             |
| 10. 流動資産回転率         | $\frac{\text{医業収益(36,358)}}{\text{平均流動資産(15,909)}}$  | 2.3   | 0.9   | 短期資産の活動状況を示し、この比率が高いほど収益の回収が早く、健全性を示す。                     |
| 11. 総資本利益率          | $\frac{\text{当年度経常利益(△9,307)}}{\text{平均総資本(17,049)}} \times 100$   | △54.6 | △38.4 | この比率は、企業の収益性を判断するもので、この比率が高いほど企業の成績が良好である。                 |
| 12. 総収支比率           | $\frac{\text{総収益(96,347)}}{\text{総費用(104,848)}} \times 100$  | 91.9  | 89.9  | 総収益と総費用とを対比して、収益と費用の総合的な関連を示すものである。比率は高いほど良く、通常は100%以上である。 |
| 13. 医業収支比率          | $\frac{\text{医業収益(36,358)}}{\text{医業費用(104,813)}} \times 100$  | 34.7  | 22.3  | 医業収益と医業費用とを対比して、業務活動の能力を示すものであり、比率は高いほど良く、通常は100%以上である。    |

別表 2-2

経営分析比率表

| 分析項目             | 算出基礎<br>(令和3年度 中津市 単位:千円)  | 比較   |       | 説明  |
|------------------|--|------|-------|---|
|                  |  | 中津市  |       |   |
|                  |  | 3年度  | 2年度   |   |
| 14. 経常収支比率       | $\frac{\text{医業収益 ( 36,358 )} + \text{医業外収益 ( 59,148 )}}{\text{医業費用 ( 104,813 )} + \text{医業外費用 ( 0 )}} \times 100$ | 91.1 | 90.0  | 企業の収益性(黒字赤字の判断基準)を示すもので、100%を超える数値が高いほど経営状態が良好といえる。 |
| 15. 職員給与費対医業収益比率 | $\frac{\text{職員給与費 ( 32,336 )}}{\text{医業収益 ( 36,358 )}} \times 100$  | 88.9 | 141.4 | 医業収益に対する職員給与費の割合を示すもので、比率が低い方が望ましい。                 |

(注) 平均=(期首+期末)/2、総資本=負債+資本







# 水道事業

## 1. 事業の概要

水道事業は、住民の日常生活に最も密着した事業で、清浄な水を安定的に供給することを目的とした公営企業である。

建設事業については、今津・三保地区をはじめとする給水区域内の未普及世帯解消のための配水管整備事業並びに、老朽管(石綿管)更新事業、下水道事業や県・市の道路改良事業等に伴う配水管改良事業を実施している。

浄水場においては、災害時においても重要なライフラインである三口浄水場の耐震化・更新工事に伴い三口浄水場の配水池を増築するための築造工事を実施している。

なお、業務実績は次のとおりである。

### (1) 給水状況

本年度の給水戸数は 30,483 戸で、前年度に比べ 583 戸(1.9%)増加している。年間総配水量は 6,729,881 m<sup>3</sup>で、前年度に比べ 226,262 m<sup>3</sup>(3.3%)減少している。

また、水道料金の収入となった有収水量は 6,299,249 m<sup>3</sup>で、前年度に比べ 8,900 m<sup>3</sup>(0.1%)増加している。

年間総配水量のうち、有収水量との割合を表す有収率は 93.6%で、前年度に比べ 3.2 ポイント上昇している。この主な要因は、漏水等の無収水量が減少したことによるものと考えられる。

### 給 水 状 況

(単位：m<sup>3</sup>、%)

| 区分                           | 年度     | 令和2年度     |       | 令和3年度     |       | 対前年度比    |       |
|------------------------------|--------|-----------|-------|-----------|-------|----------|-------|
|                              |        | 実数        | 構成比   | 実数        | 構成比   | 増減       | 比率    |
| 給水戸数(戸)                      |        | 29,900    | —     | 30,483    | —     | 583      | 1.9   |
| 給水柱数(柱)                      |        | 28,075    | —     | 28,651    | —     | 576      | 2.1   |
| 給水量の実績                       | 年間総配水量 | 6,956,143 | 100.0 | 6,729,881 | 100.0 | △226,262 | △3.3  |
|                              | 1.有収水量 | 6,290,349 | 90.4  | 6,299,249 | 93.6  | 8,900    | 0.1   |
|                              | 一般用    | 6,219,480 | 89.4  | 6,227,197 | 92.5  | 7,717    | 0.1   |
|                              | 湯屋用    | 0         | 0.0   | 0         | 0.0   | 0        | —     |
|                              | 工場用    | 64,439    | 0.9   | 65,552    | 1.0   | 1,113    | 1.7   |
|                              | その他    | 6,430     | 0.1   | 6,500     | 0.1   | 70       | 1.1   |
|                              | 2.無収水量 | 665,794   | 9.6   | 430,632   | 6.4   | △235,162 | △35.3 |
| 有収率                          |        | 90.4      | —     | 93.6      | —     | 3.2      | —     |
| 一日最大配水量                      |        | 22,375    | —     | 19,824    | —     | △2,551   | △11.4 |
| 一日平均配水量                      |        | 19,058    | —     | 18,438    | —     | △620     | △3.3  |
| 年間消費電力量(kwh)                 |        | 2,245,721 | —     | 2,258,040 | —     | 12,319   | 0.5   |
| 1m <sup>3</sup> 当り消費電力量(kwh) |        | 0.32      | —     | 0.34      | —     | 0.02     | 6.3   |

## (2) 建設改良事業

拡張工事は、大新田 726 号線配水管布設工事をはじめ、計 27 件(配水管 3,123m、消火栓 4 栓)、工事費は総額 156,834,403 円となっている。

配水設備改良工事としては、上如水大貞線配水管布設替え工事等の 14 件(配水管 4,346m、消火栓 4 栓)の工事を施工し、工事費総額は 272,135,600 円である。

これらの工事をを行い、年度末導送配水管総延長は 589,163m、消火栓の年度末総設置数は旧簡易水道施設を含めて 1,278 栓となっている。

また、浄水場整備工事として、低区配水池基礎工事をはじめ、計 9 件の工事を施工し、工事費総額は 766,326,448 円となっており、建設改良工事に伴う委託業務として、浄水場再構築基本設計委託業務等を行い、委託料総額は 111,596,221 円となっている。

## 2. 予算及び決算の状況

### (1) 収益的収入及び支出

収益的収入は、決算額 1,713,226,175 円(うち仮受消費税 131,686,792 円)で収入率 100.9% である。

このうち、営業収益は、決算額 1,435,370,598 円(うち仮受消費税 126,294,333 円)で収入率 100.2% である。

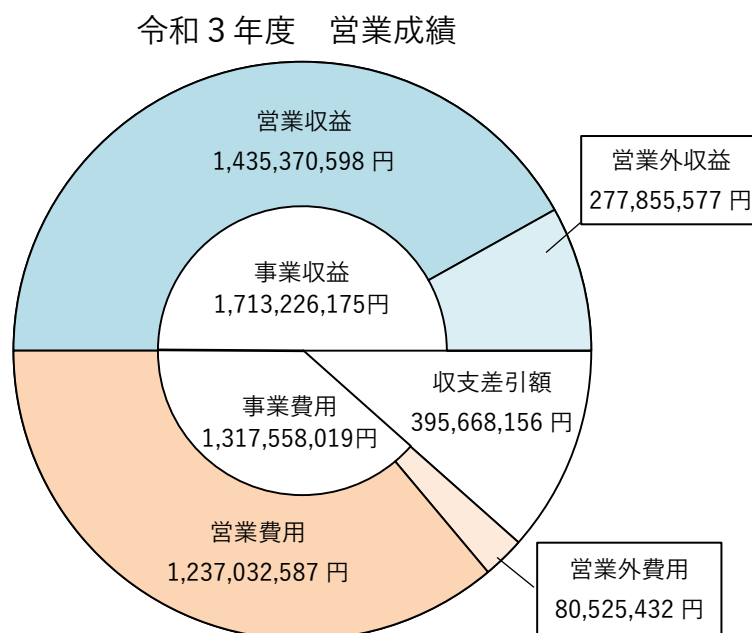
営業外収益は、決算額 277,855,577 円(うち仮受消費税 5,392,459 円)で収入率 104.9% である。

収益的支出は、決算額 1,317,558,019 円(うち仮払消費税 38,560,971 円)で執行率 93.7% であり、88,474,981 円が不用額となっている。

このうち、営業費用は、決算額 1,237,032,587 円(うち仮払消費税 38,527,733 円)で執行率 95.7% であり、55,432,772 円が不用額となっている。

営業外費用は、決算額 80,525,432 円(うち仮払消費税 33,238 円)で執行率は 77.8% であり、23,042,209 円が不用額となっている。

以上のとおり、収益的収支について本年度は、差引 395,668,156 円(消費税を含む)の黒字決算となっている。



## 収益的収入及び支出

### 収 入

(単位：円、%)

| 区分         |    | 予算額           | 決算額           | 収入率   | 予算額と<br>決算額の差 | うち仮受消費税     |
|------------|----|---------------|---------------|-------|---------------|-------------|
| 科目         |    |               |               |       |               |             |
| 第1款 水道事業収益 |    | 1,697,820,000 | 1,713,226,175 | 100.9 | 15,406,175    | 131,686,792 |
| 第1項 営業収益   |    | 1,432,944,000 | 1,435,370,598 | 100.2 | 2,426,598     | 126,294,333 |
| 第2項 営業外収益  |    | 264,876,000   | 277,855,577   | 104.9 | 12,979,577    | 5,392,459   |
| 第3項 特別利益   |    | 0             | 0             | -     | 0             | 0           |
| 令和2年度      |    | 1,695,835,000 | 1,716,234,971 | 101.2 | 20,399,971    | 132,619,096 |
| 前年度<br>対 比 | 金額 | 1,985,000     | △3,008,796    | -     | -             | -           |
|            | 伸率 | 0.1           | △0.2          | -     | -             | -           |

### 支 出

(単位：円、%)

| 区分         |    | 予算額           | 決算額           | 執行率  | 不用額        | うち仮払消費税    |
|------------|----|---------------|---------------|------|------------|------------|
| 科目         |    |               |               |      |            |            |
| 第1款 水道事業費用 |    | 1,406,033,000 | 1,317,558,019 | 93.7 | 88,474,981 | 38,560,971 |
| 第1項 営業費用   |    | 1,292,465,359 | 1,237,032,587 | 95.7 | 55,432,772 | 38,527,733 |
| 第2項 営業外費用  |    | 103,567,641   | 80,525,432    | 77.8 | 23,042,209 | 33,238     |
| 第3項 特別損失   |    | 0             | 0             | 0.0  | 0          | 0          |
| 第4項 予備費    |    | 10,000,000    | 0             | 0.0  | 10,000,000 | 0          |
| 令和2年度      |    | 1,403,110,000 | 1,367,748,823 | 97.5 | 35,361,177 | 41,068,349 |
| 前年度<br>対 比 | 金額 | 2,923,000     | △50,190,804   | -    | -          | -          |
|            | 伸率 | 0.2           | △3.7          | -    | -          | -          |
| 収支差引額      |    | 291,787,000   | 395,668,156   | -    | -          | -          |

### (2) 資本的収入及び支出

資本的収入は、決算額 1,073,608,214 円(うち仮受消費税 0 円)で、収入率は 47.0%となっており、前年度に比べ 584,879,472 円(119.7%)増加している。これは主に、浄水場整備等にかかる企業債が 393,200,000 円(125.1%)増加したためである。

資本的支出は、決算額 1,846,125,894 円(うち仮払消費税 118,832,543 円)であり、前年度に比べ 399,336,407 円(27.6%)増加している。これは主に、配水管改良工事や浄水場整備事業の増加による建設改良費の増によるものである。

収入 資本的収入及び支出 (単位：円、%)

| 科目           | 区分            |               | 予算額と<br>決算額の差  | 収入率  | うち仮受消費税 |
|--------------|---------------|---------------|----------------|------|---------|
|              | 予算額           | 決算額           |                |      |         |
| 第1款 資本的収入    | 2,284,203,499 | 1,073,608,214 | △1,210,595,285 | 47.0 | 0       |
| 第1項 企業債      | 1,404,200,000 | 707,600,000   | △696,600,000   | 50.4 | 0       |
| 第2項 工事負担金    | 248,223,499   | 90,635,884    | △157,587,615   | 36.5 | 0       |
| 第3項 固定資産売却代金 | 1,000         | 0             | △1,000         | 0.0  | 0       |
| 第4項 補助金      | 268,995,000   | 90,805,000    | △178,190,000   | 33.8 | 0       |
| 第5項 出資金      | 362,784,000   | 184,567,330   | △178,216,670   | 50.9 | 0       |
| 令和2年度        | 492,380,000   | 488,728,742   | △3,651,258     | 99.3 | 428,790 |
| 前年度<br>対比    | 金額            | 1,791,823,499 | 584,879,472    | -    | -       |
|              | 伸率            | 363.9         | 119.7          | -    | -       |

支出 (単位：円、%)

| 科目         | 区分            |               | 翌年度繰越額<br>不用額               | 執行率   | うち仮払消費税     |
|------------|---------------|---------------|-----------------------------|-------|-------------|
|            | 予算額           | 決算額           |                             |       |             |
| 第1款 資本的支出  | 2,993,991,500 | 1,846,125,894 | 1,086,950,000<br>60,915,606 | 61.7  | 118,832,543 |
| 第1項 建設改良費  | 2,486,358,761 | 1,338,493,155 | 1,086,950,000<br>60,915,606 | 53.8  | 118,832,543 |
| 第2項 企業債償還金 | 507,632,739   | 507,632,739   | 0                           | 100.0 | 0           |
| 第3項 貸付金    | 0             | 0             | 0                           | 0.0   | 0           |
| 令和2年度      | 1,795,293,600 | 1,446,789,487 | 290,195,500<br>58,308,613   | 80.6  | 55,805,341  |
| 前年度<br>対比  | 金額            | 1,198,697,900 | 399,336,407                 | -     | -           |
|            | 伸率            | 66.8          | 27.6                        | -     | -           |
| 収支差引額      | △709,788,001  | △772,517,680  | -                           | -     | -           |

なお、資本的収入1,073,608,214円が資本的支出1,846,125,894円に不足する額772,517,680円(⑤)は、消費税及び地方消費税資本的収支調整額101,777,955円(①)、過年度分損益勘定留保資金470,739,725円(②)、減債積立金取崩額100,000,000円(③)、建設改良積立金取崩額100,000,000円(④)で補てんしている。

補てん財源調書 (単位：円)

| 科目           | 区分            |             | 本年度減少額<br>(補てん額) | 本年度末残高        |
|--------------|---------------|-------------|------------------|---------------|
|              | 前年度末残高        | 本年度増加額      |                  |               |
| 消費税資本的収支調整額  | 0             | 101,777,955 | ① 101,777,955    | 0             |
| 過年度分損益勘定留保資金 | 498,897,325   | 471,913,392 | ② 470,739,725    | 500,070,992   |
| 利益剰余金        | 781,904,509   | 293,586,716 | 200,000,000      | 875,491,225   |
| 減債積立金        | 100,000,000   | 100,000,000 | ③ 100,000,000    | 100,000,000   |
| 利益積立金        | 0             | 0           | 0                | 0             |
| 建設改良積立金      | 681,904,509   | 193,586,716 | ④ 100,000,000    | 775,491,225   |
| 合計           | 1,280,801,834 | 867,278,063 | ⑤ 772,517,680    | 1,375,562,217 |

※消費税資本的収支調整額：消費税及び地方消費税は、収益的収支と資本的収支の差額分を一括して計算し収益的収入・支出としている。このため、資本的収支上に消費税等の差引額は反映されていないことから、消費税等に係る資本的収支の差引額を補てん財源として充てるもの。

※損益勘定留保資金：現金支出を伴わない減価償却費に相当する額等。

※減債積立金：企業債償還金の財源としての積立金。

※利益積立金：欠損金の補填のための財源としての積立金。

### 3. 経営成績

損益計算書は、事業年度における企業の収益がどのようにしてどのくらい得られたか、また、収益に対する費用がどれだけ必要であったかを端的に表すもので、当年度の企業の経営成績をみる指標となるものである。

経営内容を損益計算書からみると、総収益 1,573,143,726 円(金額は消費税抜きである。以下同じ。)に対し、総費用は 1,279,557,010 円で、差引 293,586,716 円の純利益が生じている。

#### (1) 営業損益

営業収益は 1,309,076,265 円で、前年度に比べ 6,110,907 円(0.5%)減少している。これは主に、給水収益が給水戸数の増等により 5,069,597 円(0.4%)増加したものの、下水道工事にかかる給水工事の事業会計変更により、受託工事収益が 14,511,526 円(皆減)減少したためである。

営業費用は 1,198,504,854 円で、前年度に比べ 2,166,235 円(0.2%)減少している。これは主に、前年度の配水管更新工事等に伴う減価償却費が 19,380,329 円(3.1%)、止水栓ハンドル購入や設置費用の増による配水及び給水費が 12,331,455 円(13.2%)それぞれ増加したものの、可搬式ろ過装置レンタル代の減による原水及び浄水費が 18,489,774 円(7.1%)、受託工事費が 16,736,600 円(88.8%)それぞれ減少したためである。

営業損益は 110,571,411 円の利益となり、前年度に比べ 3,944,672 円(3.4%)減少している。

#### (2) 営業外損益

営業外収益は 264,067,461 円で、前年度に比べ 1,676,259 円(0.6%)増加している。これは主に、雑収益が 3,276,461 円(8.9%)、一般会計繰入金の減による他会計補助金が 2,408,152 円(16.1%)減少したものの、長期前受金戻入が 4,747,965 円(2.6%)、水道新規加入者の増により分担金が 2,835,000 円(10.1%)増加したためである。

営業外費用は 81,052,156 円で、前年度に比べ 9,181,381 円(10.2%)減少している。これは主に、企業債借入利率低下による支払利息の減により支払利息が 10,327,147 円(11.5%)減少したためである。

営業外損益は 183,015,305 円の利益となり、前年度に比べ 10,857,640 円(6.3%)増加している。

#### (3) 経常損益

営業損益と営業外損益を合計した経常損益は 293,586,716 円の利益となっており、前年度に比べ 6,912,968 円(2.4%)増加している。

#### (4) 当年度損益

当年度の損益は、総収益と総費用を差し引きした 293,586,716 円の純利益となっており前年度に比べ 875,227 円(0.3%)増加している。

なお、通常 100%以上とされる総収益と総費用を対比した総収支比率は 122.9%で、前年度の 122.7%に比べ 0.2 ポイント上昇しており、県下企業 116.1%・類似企業 110.7%と比べても高い水準である。(別表 1)

### (5) 給水原価と供給単価

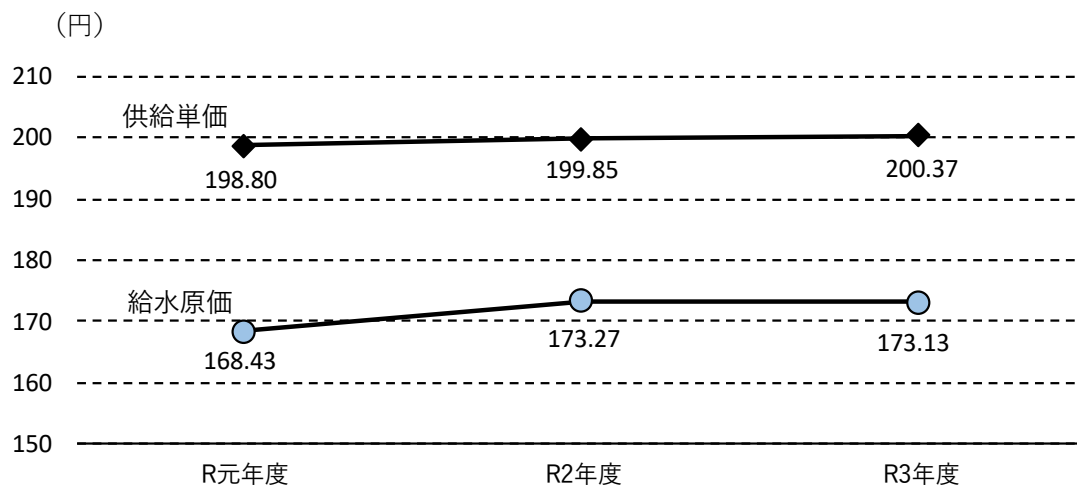
給水原価は1 m<sup>3</sup>当たり 173 円 13 銭で、前年度に比べ 14 銭減少している。供給単価は 200 円 37 銭で、前年度に比べ 52 銭増加している。供給単価から給水原価を差し引いた販売収益は 27 円 24 銭で、前年度に比べ 66 銭増加している。これは主に、給水収益の増加により供給単価が増加したことによるものである。

規模別水道料金原価調（有収水量1m<sup>3</sup>当り）

（単位：円、％）

| 項目                | 規模別 | 中 津 市  |        |       | 県下企業<br>16事業 | 類似企業<br>198事業 |
|-------------------|-----|--------|--------|-------|--------------|---------------|
|                   |     | 2年度    | 3年度    | 増減    | 2年度          | 2年度           |
| 給 水 原 価 (A)       |     | 173.27 | 173.13 | △0.14 | 160.54       | 167.10        |
| 販売価格(供給単価) (B)    |     | 199.85 | 200.37 | 0.52  | 170.84       | 168.52        |
| 販 売 収 益 (B-A)=(C) |     | 26.58  | 27.24  | 0.66  | 10.30        | 1.42          |
| 料 金 回 収 率 (B/A)   |     | 115.34 | 115.73 | 0.39  | 106.42       | 100.85        |
| 販 売 収 益 率 (C/A)   |     | 15.34  | 15.73  | 0.39  | 6.42         | 0.85          |

給水原価と供給単価の推移



比較損益計算書

(単位：円、%)

| 区 分<br>科目            | 令和2年度         |                        | 令和3年度         |                        | 対前年度比       |       |
|----------------------|---------------|------------------------|---------------|------------------------|-------------|-------|
|                      | 金額            | 総収益又は<br>総費用に<br>対する比率 | 金額            | 総収益又は<br>総費用に<br>対する比率 | 増減額         | 比率    |
| 1. 営業収益              | 1,315,187,172 | 83.1                   | 1,309,076,265 | 83.2                   | △6,110,907  | △0.5  |
| (1) 給水収益             | 1,257,104,797 | 79.4                   | 1,262,174,394 | 80.2                   | 5,069,597   | 0.4   |
| (2) 受託工事収益           | 14,511,526    | 0.9                    | 0             | 0.0                    | △14,511,526 | 皆減    |
| (3) その他の営業収益         | 43,570,849    | 2.8                    | 46,901,871    | 3.0                    | 3,331,022   | 7.6   |
| 2. 営業費用              | 1,200,671,089 | 93.0                   | 1,198,504,854 | 93.7                   | △2,166,235  | △0.2  |
| (1) 原水及び浄水費          | 259,526,039   | 20.1                   | 241,036,265   | 18.8                   | △18,489,774 | △7.1  |
| (2) 配水及び給水費          | 93,398,897    | 7.2                    | 105,730,352   | 8.3                    | 12,331,455  | 13.2  |
| (3) 受託工事費            | 18,845,600    | 1.5                    | 2,109,000     | 0.2                    | △16,736,600 | △88.8 |
| (4) 総係費              | 83,076,823    | 6.4                    | 85,674,214    | 6.7                    | 2,597,391   | 3.1   |
| (5) 業務費              | 107,077,468   | 8.3                    | 105,194,329   | 8.2                    | △1,883,139  | △1.8  |
| (6) 減価償却費            | 632,486,207   | 49.0                   | 651,866,536   | 51.0                   | 19,380,329  | 3.1   |
| (7) 資産減耗費            | 6,260,055     | 0.5                    | 6,894,158     | 0.5                    | 634,103     | 10.1  |
| A 営業損益<br>(1-2)      | 114,516,083   | -                      | 110,571,411   | -                      | △3,944,672  | △3.4  |
| 3. 営業外収益             | 262,391,202   | 16.5                   | 264,067,461   | 16.8                   | 1,676,259   | 0.6   |
| (1) 受取利息             | 647,855       | 0.0                    | 425,762       | 0.0                    | △222,093    | △34.3 |
| (2) 分担金              | 27,990,000    | 1.8                    | 30,825,000    | 2.0                    | 2,835,000   | 10.1  |
| (3) 他会計補助金           | 14,988,862    | 0.9                    | 12,580,710    | 0.8                    | △2,408,152  | △16.1 |
| (4) 長期前受金戻入          | 182,099,337   | 11.5                   | 186,847,302   | 11.9                   | 4,747,965   | 2.6   |
| (5) 雑収益              | 36,665,148    | 2.3                    | 33,388,687    | 2.1                    | △3,276,461  | △8.9  |
| 4. 営業外費用             | 90,233,537    | 7.0                    | 81,052,156    | 6.3                    | △9,181,381  | △10.2 |
| (1) 支払利息             | 89,660,622    | 6.9                    | 79,333,475    | 6.2                    | △10,327,147 | △11.5 |
| (2) 雑支出              | 572,915       | 0.1                    | 1,718,681     | 0.1                    | 1,145,766   | 200.0 |
| (3) 貸倒償却             | 0             | 0.0                    | 0             | 0.0                    | 0           | -     |
| B 営業外損益<br>(3-4)     | 172,157,665   | -                      | 183,015,305   | -                      | 10,857,640  | 6.3   |
| C 経常損益<br>(A+B)      | 286,673,748   | -                      | 293,586,716   | -                      | 6,912,968   | 2.4   |
| 5. 特別利益              | 6,037,741     | 0.0                    | 0             | 0.0                    | △6,037,741  | 皆減    |
| (1) 貸倒引当金戻入益         | 351,181       | 0.0                    | 0             | 0.0                    | △351,181    | 皆減    |
| (2) 退職給付引当金戻入益       | 5,686,560     | 0.0                    | 0             | 0.0                    | △5,686,560  | 皆減    |
| D 当年度純利益<br>(C+5)    | 292,711,489   | -                      | 293,586,716   | -                      | 875,227     | 0.3   |
| E 前年度繰越利益剰余金         | 0             | -                      | 0             | -                      | 0           | -     |
| 当年度未処分利益剰余金<br>(D+E) | 292,711,489   | -                      | 293,586,716   | -                      | 875,227     | 0.3   |

[ 令和3年度 総収益 1,573,143,726円 総費用 1,279,557,010円 ]  
 [ 令和2年度 総収益 1,583,616,115円 総費用 1,290,904,626円 ]



## 4. 財政状態

### (1) 資産

資産合計は18,530,051,477円で、前年度に比べ727,206,591円(4.1%)増加している。

内訳をみると、固定資産は前年度に比べ560,899,918円(3.5%)増加している。これは、主に建設仮勘定が439,983,458円(491.1%)、機械及び装置が186,477,469円(13.1%)それぞれ増加したためである。

流動資産は前年度に比べ166,306,673円(10.5%)増加している。これは主に、現金及び預金が499,841,515円(40.3%)減少したものの、前払金が420,136,000円(610.9%)、未収金が211,989,994円(78.2%)それぞれ増加したためである。

また、未収金の状況は、次表のとおりである。

#### 未 収 金 等 の 状 況

(単位：円、%)

| 区分        | 年度   | 令和2年度       | 令和3年度       | 対前年度        |       |
|-----------|------|-------------|-------------|-------------|-------|
|           |      |             |             | 増減額         | 増減率   |
| 給 水 収 益   |      | 251,521,251 | 249,598,468 | △1,922,783  | △0.8  |
|           | 現年度分 | 236,497,379 | 234,309,753 | △2,187,626  | △0.9  |
|           | 過年度分 | 15,023,872  | 15,288,715  | 264,843     | 1.8   |
| 給 水 工 事   |      | 10,358,291  | 41,647,217  | 31,288,926  | 302.1 |
| そ の 他     |      | 9,980,008   | 192,643,004 | 182,662,996 | 大幅増   |
| 貸 倒 引 当 金 |      | △655,227    | △694,372    | △39,145     | 6.0   |
| 計         |      | 271,204,323 | 483,194,317 | 211,989,994 | 78.2  |
| 不 納 欠 損 額 |      | 15,840      | 774,303     | 758,463     | 大幅増   |

※収入未済額は納期未到来分(2月分は4月納期・3月分は5月納期)含む。

このうち、給水収益である水道料金の収入未済額は249,598,468円であり、前年度に比べ現年度分は2,187,626円減少し、過年度分は264,843円増加している。徴収状況については、現年度分の徴収率は83.1%で前年度に比べ0.2ポイント上昇、過年度分は93.7%で0.1ポイント下降している。また、本年度は774,303円の不納欠損処分を行っている。

なお、不納欠損処分についてはいずれも関係法令等に則り適正に処理されているものと認められた。今後も引き続き適正な債権管理に努められたい。

未収金は、時間の経過とともに回収が困難となる。また、水道料金の未収は、企業の経営悪化の要因となるので、市民の負担の公平を図るためにも、未収金回収について、現年度での回収を前提に迅速かつ実効性のある対応策を取り、一層の努力をされるよう要望する。

## (2) 負債及び資本

負債合計は 10,002,713,335 円で、前年度に比べ 249,052,545 円(2.6%)増加している。

内訳をみると、固定負債は前年度に比べ 166,659,048 円(3.5%)増加している。これは、企業債が 166,659,048 円(3.5%)増加したためである。

流動負債は前年度に比べ 104,294,541 円(13.3%)増加している。これは主に、未払金が 83,721,254 円(42.1%)、企業債が 33,308,213 円(6.7%)増加したためである。

本年度の企業債の発行額は 707,600,000 円、償還額は 507,632,739 円となっている。

なお、企業債の概況は次表のとおりである。

繰延収益は前年度に比べ 21,901,044 円(0.5%)減少している。これは、長期前受金が 150,314,962 円(2.3%)増加したものの、収益化累計額が 172,216,006 円(7.3%)減少したためである。

資本合計は 8,527,338,142 円で、前年度に比べ 478,154,046 円(5.9%)増加している。

内訳をみると、資本金は前年度に比べ 584,567,330 円(8.5%)増加している。

剰余金は前年度に比べ 106,413,284 円(8.9%)減少している。これは主に、建設改良積立金が 92,711,489 円(19.0%)増加したものの、その他未処分利益剰余金が 200,000,000 円(50.0%)、減少したためである。

比率が高いほど経営の安全性が大きいとされる企業財政の長期の健全化をみる自己資本構成比率は 68.7%で、前年度に比べ 0.2 ポイント下降しており、令和 2 年度の県下企業 71.9%・類似企業 71.7%に比べると本年度もやや下回っている。

また、100%以下が望ましいとされる固定資産対長期資本比率は 95.1%で、前年度の 95.3%と比べ 0.2 ポイント下降し、理想比率とされる 100%以下に収まっている。

固定資産は自己資本によってまかなわれるべきとする企業財政上の原則から、100%以下が望ましいとされる固定比率は 131.8%で、前年度の 132.2%と比べ 0.4 ポイント下降し改善しているものの、理想比率には届いていない。

短期債務に対する支払能力を示す流動比率は 197.9%で、前年度に比べ 5.1 ポイント下降し、理想比率とされる 200%以上をやや下回っている。

また、流動資産のうち現金預金や未収金などの当座資産と流動負債を対比させた酸性試験比率(当座比率)は 137.9%で、前年度に比べ 55.1 ポイント下降しているものの、理想比率とされる 100%以上に収まっている。

以上のとおり、長期の健全性を示す比率について考察すると、固定資産対長期資本比率は理想数値に収まっているものの、固定比率は自己資本金と剰余金の割合が低いため、理想数値に達しておらず、企業債への依存度が高いことがわかる。(別表 1)

### 企業債の概況

(単位：円)

| 借入先   | 借入の目的   | 前年度末残高        | 本年度借入額      | 本年度償還高      | 本年度末残高        |
|-------|---------|---------------|-------------|-------------|---------------|
| 政府資金  | 水道事業    | 1,161,379,156 | 0           | 197,006,684 | 964,372,472   |
|       | 旧簡易水道事業 | 677,681,113   | 0           | 70,038,459  | 607,642,654   |
| 機構資金  | 水道事業    | 3,225,677,592 | 707,600,000 | 220,402,385 | 3,712,875,207 |
|       | 旧簡易水道事業 | 64,463,470    | 0           | 5,005,211   | 59,458,259    |
| 市中銀行等 | 旧簡易水道事業 | 98,640,000    | 0           | 15,180,000  | 83,460,000    |
| 合計    |         | 5,227,841,331 | 707,600,000 | 507,632,739 | 5,427,808,592 |

比較貸借対照表

(単位：円、%)

| 借方科目         | 平成2年度          |       | 令和3年度          |       | 対前年度比        |       |
|--------------|----------------|-------|----------------|-------|--------------|-------|
|              | 金額             | 構成比   | 金額             | 構成比   | 増減額          | 比率    |
| 1. 固定資産      | 16,212,347,404 | 91.0  | 16,773,247,322 | 90.5  | 560,899,918  | 3.5   |
| (1) 有形固定資産   | 14,392,920,650 | 80.8  | 15,004,437,154 | 81.0  | 611,516,504  | 4.2   |
| 土地           | 396,955,650    | 2.2   | 397,229,650    | 2.1   | 274,000      | 0.1   |
| 建物           | 341,633,028    | 1.9   | 328,496,381    | 1.8   | △13,136,647  | △3.8  |
| 構築物          | 12,085,985,590 | 67.9  | 12,095,529,819 | 65.3  | 9,544,229    | 0.1   |
| 機械及び装置       | 1,428,060,001  | 8.0   | 1,614,537,470  | 8.7   | 186,477,469  | 13.1  |
| 車両運搬具        | 6,159,557      | 0.0   | 3,913,157      | 0.0   | △2,246,400   | △36.5 |
| 器具備品         | 44,538,293     | 0.3   | 35,158,688     | 0.2   | △9,379,605   | △21.1 |
| 建設仮勘定        | 89,588,531     | 0.5   | 529,571,989    | 2.9   | 439,983,458  | 491.1 |
| (2) 無形固定資産   | 1,519,426,754  | 8.5   | 1,468,810,168  | 7.9   | △50,616,586  | △3.3  |
| ダム使用権        | 1,517,091,554  | 8.5   | 1,466,939,768  | 7.9   | △50,151,786  | △3.3  |
| 水利権          | 2,335,200      | 0.0   | 1,870,400      | 0.0   | △464,800     | △19.9 |
| (3) 投資その他の資産 | 300,000,000    | 1.7   | 300,000,000    | 1.6   | 0            | 0.0   |
| 長期貸付金        | 300,000,000    | 1.7   | 300,000,000    | 1.6   | 0            | 0.0   |
| 2. 流動資産      | 1,590,497,482  | 9.0   | 1,756,804,155  | 9.5   | 166,306,673  | 10.5  |
| (1) 現金及び預金   | 1,241,626,641  | 7.0   | 741,785,126    | 4.0   | △499,841,515 | △40.3 |
| (2) 未収金      | 271,204,323    | 1.5   | 483,194,317    | 2.6   | 211,989,994  | 78.2  |
| (3) 未収消費税    | 799,500        | 0.0   | 35,445,120     | 0.2   | 34,645,620   | 大幅増   |
| (4) 貯蔵品      | 8,099,018      | 0.1   | 7,475,592      | 0.1   | △623,426     | △7.7  |
| (5) 前払金      | 68,768,000     | 0.4   | 488,904,000    | 2.6   | 420,136,000  | 610.9 |
| 資産合計         | 17,802,844,886 | 100.0 | 18,530,051,477 | 100.0 | 727,206,591  | 4.1   |
| 3. 固定負債      | 4,754,122,193  | 26.7  | 4,920,781,241  | 26.5  | 166,659,048  | 3.5   |
| (1) 企業債      | 4,728,445,545  | 26.6  | 4,895,104,593  | 26.4  | 166,659,048  | 3.5   |
| (2) 引当金      | 25,676,648     | 0.1   | 25,676,648     | 0.1   | 0            | 0.0   |
| 4. 流動負債      | 783,414,786    | 4.4   | 887,709,327    | 4.8   | 104,294,541  | 13.3  |
| (1) 企業債      | 499,395,786    | 2.8   | 532,703,999    | 2.9   | 33,308,213   | 6.7   |
| (2) 未払金      | 198,985,330    | 1.1   | 282,706,584    | 1.5   | 83,721,254   | 42.1  |
| (3) 未払費用     | 65,411,128     | 0.4   | 54,643,898     | 0.3   | △10,767,230  | △16.5 |
| (4) 未払消費税    | 0              | 0.0   | 0              | 0.0   | 0            | —     |
| (5) 預り金      | 7,633,015      | 0.0   | 6,054,634      | 0.0   | △1,578,381   | △20.7 |
| (6) 引当金      | 11,989,527     | 0.1   | 11,600,212     | 0.1   | △389,315     | △3.2  |
| 5. 繰延収益      | 4,216,123,811  | 23.7  | 4,194,222,767  | 22.6  | △21,901,044  | △0.5  |
| (1) 長期前受金    | 6,584,920,635  | 37.0  | 6,735,235,597  | 36.3  | 150,314,962  | 2.3   |
| (2) 収益化累計額   | △2,368,796,824 | △13.3 | △2,541,012,830 | △13.7 | △172,216,006 | 7.3   |
| 負債合計         | 9,753,660,790  | 54.8  | 10,002,713,335 | 53.9  | 249,052,545  | 2.6   |
| 6. 資本金       | 6,857,760,587  | 38.5  | 7,442,327,917  | 40.2  | 584,567,330  | 8.5   |
| (1) 自己資本金    | 6,857,760,587  | 38.5  | 7,442,327,917  | 40.2  | 584,567,330  | 8.5   |
| 7. 剰余金       | 1,191,423,509  | 6.7   | 1,085,010,225  | 5.9   | △106,413,284 | △8.9  |
| (1) 資本剰余金    | 9,519,000      | 0.1   | 9,519,000      | 0.1   | 0            | 0.0   |
| (2) 利益剰余金    | 1,181,904,509  | 6.6   | 1,075,491,225  | 5.8   | △106,413,284 | △9.0  |
| 建設改良積立金      | 489,193,020    | 2.8   | 581,904,509    | 3.1   | 92,711,489   | 19.0  |
| 当年度未処分利益剰余金  | 292,711,489    | 1.6   | 293,586,716    | 1.6   | 875,227      | 0.3   |
| その他未処分利益剰余金  | 400,000,000    | 2.2   | 200,000,000    | 1.1   | △200,000,000 | △50.0 |
| 資本合計         | 8,049,184,096  | 45.2  | 8,527,338,142  | 46.1  | 478,154,046  | 5.9   |
| 負債・資本合計      | 17,802,844,886 | 100.0 | 18,530,051,477 | 100.0 | 727,206,591  | 4.1   |

### (3) 収益性

企業の収益性を総合的に判断するものとしては、資本に対する利益の程度を示す最も基本的な比率である総資本利益率があり、数値が高いほど良いとされている。本年度は前年度と同じく1.6%で、類似企業1.0%と比べると本年度も上回っている。

通常100%以上とされる企業活動と経営状態を示す総収支比率は122.9%で、前年度より0.2ポイント上昇しており、県下企業116.1%・類似企業110.7%と比べると本年度も上回っている。

営業収支比率は、営業収益と営業費用との対比で業務活動の能力を示し、経営活動の成否が判断されるものであり、比率が高いほど良いとされている。本年度は109.4%で、前年度より0.7ポイント下降しているが、県下企業106.4%・類似企業97.4%と比べると上回っている。

本年度の減価償却額と固定資産を比較した減価償却率は4.0%で、前年度より0.1ポイント上昇しており、県下企業4.0%・類似企業4.2%とほぼ同じ数値となっている。

比率が高いほど良いとされる未収金の回転速度を示す未収金回転率は3.5回であり、前年度より0.1ポイント上昇しているが、県下企業4.8回・類似企業6.6回と比べると下回っている。

これらの結果より、総資本利益率、総収支比率、営業収支比率は本年度も上回っているため総合的な収益性は高いといえるが、未収金回転率は下回っている。(別表1)

### (4) 労働生産性

労働生産性は、職員一人当りの営業収益、給水人口と有収水量で示される。本年度は、次表のとおりである。

営業収益は81,817千円で前年度に比べ5,307千円(6.9%)の増加、給水人口は4,342人で前年度に比べ263人(6.4%)の増加、有収水量は393,703m<sup>3</sup>で前年度に比べ23,682m<sup>3</sup>(6.4%)の増加となっている。これらの数値は、県下企業と比べると本年度も上回っているため、高い労働生産性を保っていると言える。

労働生産性一覧表（職員一人当たり）

| 区分                    | 年度 | 中 津 市   |         |        |      | 県下企業<br>16事業 | 類似企業<br>198事業 |
|-----------------------|----|---------|---------|--------|------|--------------|---------------|
|                       |    | 令和2年度   | 令和3年度   | 増減     | 増減率  | 令和2年度        | 令和2年度         |
| 営業収益(千円)              |    | 76,510  | 81,817  | 5,307  | 6.9% | 53,852       | 71,272        |
| 給水人口(人)               |    | 4,079   | 4,342   | 263    | 6.4% | 2,879        | 3,663         |
| 有収水量(m <sup>3</sup> ) |    | 370,021 | 393,703 | 23,682 | 6.4% | 303,114      | 407,075       |

### (5) キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー計算書は財務諸表のひとつで、会計期間内の資金の動きを表したものであり、3つに細分化される。

業務活動によるキャッシュ・フローは、企業の主たる営業活動で発生した現金や容易に換金可能な預金(以下現金等)の増減を表している。本年度は176,557,248円である。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備等の投資、固定資産の売買に関する現金等の増減を表している。本年度は△1,060,933,354円である。

財務活動によるキャッシュ・フローは、企業活動に必要な資金の調達や企業債などの返済に

関する現金等の増減を表している。本年度は 384,534,591 円である。(別表 2)

以上の 3 区分から、本年度の資金期末残高は 741,785,126 円で、健全な現金等の管理運営が行われている状況にあると考えられる。

なお、資金期末残高の額と貸借対照表中の現金及び預金の額とは一致している。

また、出納取扱金融機関の当年度末預金残高と照合した結果、差引残高 741,785,126 円(現金 100,000 円、普通預金 711,685,126 円、定期預金 30,000,000 円)は正確であることを確認した。

## 5. むすび

以上が令和 3 年度水道事業の決算審査の概要である。

本年度は、建設事業については、今津・三保地区など未普及世帯の解消を図るための配水管整備事業並びに安全性向上のための老朽管更新事業などを行った。

浄水場については、三口浄水場の耐震化・更新工事に伴い三口浄水場の配水池の増築工事を実施中である。

給水事業については、漏水対策に努めながら安全で安定した供給と水資源の効率的な活用を図っている。

給水状況についてみると、給水戸数は 30,483 戸で、前年度に比べ 583 戸(1.9%)増加している。年間総配水量は 6,729,881 m<sup>3</sup>で、前年度に比べ 226,262 m<sup>3</sup>(3.3%)減少したものの、有収水量は 6,299,249 m<sup>3</sup>で前年度に比べ 8,900 m<sup>3</sup>(0.1%)増加している。有収率は前年度と比べ 3.2 ポイント増加し 93.6%となった。

経営状況についてみると、総収益は 1,573,143,726 円で、前年度 1,583,616,115 円に比べ 10,472,389 円(0.7%)減少している。

総費用は 1,279,557,010 円で、前年度 1,290,904,626 円に比べ 11,347,616 円(0.9%)減少している。この結果、当年度損益は 293,586,716 円の純利益となり、前年度 292,711,489 円の純利益に比べ 875,227 円(0.3%)増加している。また、当年度末処分利益剰余金は 293,586,716 円で、減債積立金 100,000,000 円、建設改良積立金 193,586,716 円をそれぞれ積立予定である。

なお、営業収支比率は 109.4%で、前年度に比べ 0.7 ポイント下降し、総収支比率は 122.9%で、前年度に比べ 0.2 ポイント上昇している。

資本的収支についてみると、資本的収入は 1,073,608,214 円で、前年度に比べ企業債が 393,200,000 円(125.1%)増加したことなどにより 584,879,472 円(119.7%)増加している。

資本的支出は 1,846,125,894 円で、前年度に比べ建設改良費の増加などにより 399,336,407 円(27.6%)増加している。

なお、資本的収入が資本的支出に不足する額 772,517,680 円は、消費税及び地方消費税資本的収支調整額 101,777,955 円、過年度分損益勘定留保資金 470,739,725 円、減債積立金取崩額 100,000,000 円、建設改良積立金取崩額 100,000,000 円で補てんしている。

当年度末の企業債残高は、5,427,808,592 円で、年度中の借入額は 707,600,000 円、償還額は 507,632,739 円となっている。

経営面においては、水道事業は、人口減少社会・節水型社会の到来で、経営の根幹を成す料金収入の大幅な増収が期待できない一方、耐震化を始めとした災害対策や老朽化した施設設備の更新・改良の時期が到来しており、水道を取り巻く経営環境は厳しく、健全な事業経営が強く求められている。

管路布設や老朽管更新等の建設改良等に係る資本的収支は、企業債や補助金等を主な財源としており構造的に収入が支出に対して不足するため、料金収入を主な財源とした維持管理に係る収益的収支の利益剰余金からその不足額を補填し又は将来の建設改良費や企業債償還金に充てるための積立金としなければならない。そのためには、徹底した経費節減に努めながら将来的な水需要の予測に基づいた業務計画により収益的収支を見積もるとともに、将来的な建設改良計画により資本的収支を見積もり、健全な経営基盤を築くために必要な料金収入を確保できる適正な料金水準を算定し経費回収に努められたい。今後も将来にわたり安心・安全な「水」を安定的に供給するため、経済性を発揮するとともに公共性を確保されるよう期待する。



## 別表 1

## 経営分析比率表

| 分析項目                | 算出基礎<br>(令和3年度中津市 単位:千円)   | 比較      |         |         |         | 説明   |
|---------------------|--|---------|---------|---------|---------|--|
|                     |  | 中津市     |         | 県下企業    | 類似企業    |  |
|                     |  | 3年度     | 2年度     | 2年度     | 2年度     |  |
| 1. 自己資本構成比率         | $\frac{\text{資本金}(7,442,328) + \text{剰余金}(1,085,010) + \text{評価差額等}(0) + \text{繰延収益}(4,194,223)}{\text{総資本}(18,530,051)} \times 100$                                       | 68.7    | 68.9    | 71.9    | 71.7    | 資本総額とこれを構成する自己資本の関係を示すもので、自己資本構成比率が高いほど経営の安全性は大きいものといえる。   |
| 2. 固定資産対長期資本比率      | $\frac{\text{固定資産}(16,773,247)}{\text{資本金}(7,442,328) + \text{剰余金}(1,085,010) + \text{固定負債}(4,920,781) + \text{評価差額等}(0) + \text{繰延収益}(4,194,223)} \times 100$             | 95.1    | 95.3    | 92.9    | 90.0    | 固定資産の調達、自己資本と固定負債の範囲内で行われているかを示すもので、100%以下が望ましい。           |
| 3. 固定比率             | $\frac{\text{固定資産}(16,773,247)}{\text{資本金}(7,442,328) + \text{剰余金}(1,085,010) + \text{評価差額等}(0) + \text{繰延収益}(4,194,223)} \times 100$                                      | 131.8   | 132.2   | 124.7   | 120.8   | 固定資産は自己資本によってまかなわれるべきとする企業財政上の原則から、100%以下が望ましい。            |
| 4. 流動比率             | $\frac{\text{流動資産}(1,756,804)}{\text{流動負債}(887,709)} \times 100$   | 197.9   | 203.0   | 297.9   | 350.8   | 短期債務に対して応ずべき流動資産が十分あるかを示し100%以上が必要であり、理想比率は200%以上である。      |
| 5. 酸性試験比率<br>(当座比率) | $\frac{\text{現金及び預金}(741,785) + \text{未収金}(483,194) - \text{貸倒引当金}(694)}{\text{流動負債}(887,709)} \times 100$   | 137.9   | 193.0   | 287.6   | 333.3   | 当座資産と流動負債とを対比させたもので、100%以上が望ましい。                           |
| 6. 減価償却率            | $\frac{\text{当年度減価償却費}(651,867)}{\text{有形固定資産}(15,004,437) + \text{無形固定資産}(1,468,810) - \text{土地}(397,230) - \text{建設仮勘定}(529,572) + \text{当年度減価償却費}(651,867)} \times 100$ | 4.0     | 3.9     | 4.0     | 4.2     | 当年度の減価償却額と固定資産を比較し、固定資産に投下された資本の回収速度をみる。                   |
| 7. 未収金回転率           | $\frac{\text{営業収益}(1,309,076) - \text{受託工事収益}(0)}{\text{平均未収金}(376,525)}$  | 3.5     | 3.4     | 4.8     | 6.6     | 未収金の回収速度を示し、高いほど回転が早く、未回収のまま残留する期間が短いことを示す。                |
| 8. 総資本利益率           | $\frac{\text{当年度経常利益}(293,587)}{\text{期首・期末総資本平均}(18,166,448)} \times 100$   | 1.6     | 1.6     | 1.3     | 1.0     | 企業の収益性を総合的に判断するもので、利益がどれだけ資本を用いた結果であるか、その効率をみる。数値が高いほどよい。  |
| 9. 総収支比率            | $\frac{\text{総収益}(1,573,144)}{\text{総費用}(1,279,557)} \times 100$   | 122.9   | 122.7   | 116.1   | 110.7   | 総収益と総費用とを対比して、収益と費用の総合的な関連を示すものである。比率は高いほど良く、通常は100%以上である。 |
| 10. 営業収支比率          | $\frac{\text{営業収益}(1,309,076) - \text{受託工事収益}(0)}{\text{営業費用}(1,198,505) - \text{受託工事費用}(2,109)} \times 100$   | 109.4   | 110.1   | 106.4   | 97.4    | 業務活用の能力を示すもので、これによって経営活動の成否が判断されるものであり、比率が高いほどよいとされる。      |
| 11. 職員一人当たり<br>営業収益 | $\frac{\text{営業収益}(1,309,076) - \text{受託工事収益}(0)}{\text{損益勘定所属職員数}(16 \text{人})}$  | 81,817  | 76,510  | 53,852  | 71,272  | (単位:千円)  |
| 12. 職員一人当たり<br>給水人口 | $\frac{\text{現在給水人口}(69,473 \text{人})}{\text{損益勘定所属職員数}(16 \text{人})}$   | 4,342   | 4,079   | 2,879   | 3,663   | (単位:人)   |
| 13. 職員一人当たり<br>有収水量 | $\frac{\text{年間総有収水量}(6,299.25 \text{ 千m}^3)}{\text{損益勘定所属職員数}(16 \text{人})}$  | 393,703 | 370,021 | 303,114 | 407,075 | (単位:m <sup>3</sup> )                                       |
| 14. 有収率             | $\frac{\text{年間総有収水量}(6,299.25 \text{ 千m}^3)}{\text{年間総配水量}(6,729.88 \text{ 千m}^3)} \times 100$  | 93.6    | 90.4    | 85.2    | 87.3    | 総配水量のうち、料金収入となる水量の割合を示す。(単位:%)                             |

(注) 1. 上記表の数値は、類似団体との比較のために地方公営企業決算状況調査(決算統計)の数値を使用。

2. 県下企業は、大分県下市町村16事業で、令和2年度市町村財政概要(大分県総務部市町村振興課発行)から参照。

3. 類似企業は、全国給水人口5万人以上10万人未満の198事業で、令和2年度地方公営企業年鑑(総務省発行)から参照。

4. 総資本=負債+資本

## 別表 2

## キャッシュ・フロー計算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位:円)

| 区 分                     | 金 額             |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 業務活動によるキャッシュ・フロー     |                 |
| 当年度純利益                  | 293,586,716     |
| 減価償却費                   | 651,866,536     |
| 固定資産除却費                 | 13,113,158      |
| 固定資産売却益(△は益)            | 0               |
| 引当金の増減額(△は減少)           | △ 350,170       |
| 長期前受金戻入額                | △ 186,847,302   |
| 受取利息及び受取配当金             | △ 425,762       |
| 支払利息                    | 79,333,475      |
| 未収金の増減額(△は増加)           | △ 246,674,759   |
| 貯蔵品の増減額(△は増加)           | 623,426         |
| 前払金の増減額(△は増加)           | △ 420,136,000   |
| 未払金の増減額(△は減少)           | 72,954,024      |
| 前受金の増減額(△は減少)           | 0               |
| 預り金の増減額(△は減少)           | △ 1,578,381     |
| 小 計                     | 255,464,961     |
| 利息及び配当金の受取額             | 425,762         |
| 利息の支払額                  | △ 79,333,475    |
| 計 (A)                   | 176,557,248     |
| 2. 投資活動によるキャッシュ・フロー     |                 |
| 固定資産の取得による支出            | △ 1,225,879,612 |
| 固定資産売却による収入             | 0               |
| 補助金による収入                | 82,550,000      |
| 工事負担金による収入              | 82,396,258      |
| 一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入 | 0               |
| 計 (B)                   | △ 1,060,933,354 |
| 3. 財務活動によるキャッシュ・フロー     |                 |
| 企業債による収入                | 707,600,000     |
| 企業債の償還による支出             | △ 507,632,739   |
| 他会計からの出資による収入           | 184,567,330     |
| 他会計への貸付による支出            | 0               |
| 計 (C)                   | 384,534,591     |
| 資金に係る換算差額               | 0               |
| 資金増加額(又は減少額) (A+B+C)    | △ 499,841,515   |
| 資金期首残高                  | 1,241,626,641   |
| 資金期末残高                  | 741,785,126     |



# 下水道事業

## 1. 事業の概要

下水道事業は、平成31年4月1日から地方公営企業法の適用となった、し尿・生活雑排水等の処理及び市街地における雨水排除を目的とした公営企業である。

建設事業については、東浜及び大新田等の污水管渠布設工事や、米山及び牛神・湯屋地区の雨水幹線の整備を実施している。

なお、業務実績は次のとおりである。

### (1) 下水道状況

本年度の水洗化人口は30,386人で、前年度に比べ1,596人(5.5%)増加し、水洗化率は前年度に比べ2.4ポイント増加し81.5%になっている。

また、下水道使用料の収入となった有収水量は3,233,629 m<sup>3</sup>で、前年度に比べ32,240 m<sup>3</sup>(1.0%)増加している。

施設の効率性を表す有収率は、前年度に比べ2.2ポイント上昇し75.7%となっている。

### 下水道事業の状況

(単位：人、%、m<sup>3</sup>)

| 区分      | 年度      | 中津市       |           |         |      | 類似企業       |
|---------|---------|-----------|-----------|---------|------|------------|
|         |         | 令和2年度     | 令和3年度     | 増減      | 増減率  | 令和2年度      |
| 行政区域内人口 | (A)     | 83,517    | 82,626    | △891    | △1.1 | 123,155    |
| 処理区域内人口 | (B)     | 36,390    | 37,282    | 892     | 2.5  | 73,107     |
| 水洗化人口   | (C)     | 28,790    | 30,386    | 1,596   | 5.5  | 69,799     |
| 普及率     | (B)/(A) | 43.6      | 45.1      | 1.5     | -    | 59.4       |
| 水洗化率    | (C)/(B) | 79.1      | 81.5      | 2.4     | -    | 95.5       |
| 年間総処理水量 | (D)     | 4,354,303 | 4,269,676 | △84,627 | △1.9 | 10,737,155 |
| 有収水量    | (E)     | 3,201,389 | 3,233,629 | 32,240  | 1.0  | 7,874,050  |
| 有収率     | (E)/(D) | 73.5      | 75.7      | 2.2     | -    | 73.3       |

※類似企業は1,347企業の平均値

(各年度末現在)

### (2) 建設改良事業

建設工事は、牛神湯屋雨水幹線整備工事や東浜枝線管渠布設工事等の33件(污水管4,780m、マンホール蓋調整工事4件等)、工事費総額は829,095,300円となっている。

これらの工事により、年度末下水管布設延長は268km(污水管258km、雨水管10km)、整備面積は19.9ha(1.9%)増加し、全体で1,089.1haとなっている。

また、建設改良工事に伴う委託業務として、中津市公共下水道中津終末処理場の建設工事委託(令和2年度からの繰越分)等を行い、委託料総額は648,777,224円となっている。

## 2. 予算及び決算の状況

### (1) 収益的収入及び支出

収益的収入は、決算額 2,079,182,762 円(うち仮受消費税 55,940,268 円)で収入率 101.2%である。

このうち、営業収益は、決算額 727,478,091 円(うち仮受消費税 55,693,177 円)で収入率 101.5%である。

営業外収益は、決算額 1,351,647,118 円(うち仮受消費税 247,091 円)で収入率 101.1%である。

また、特別利益は、決算額 57,553 円(うち仮受消費税 0 円)である。

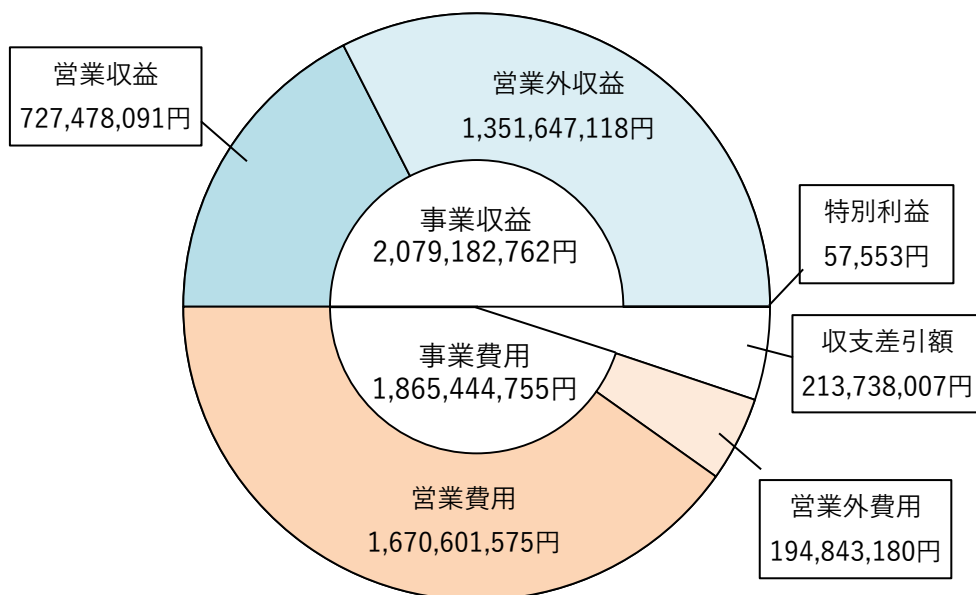
収益的支出は、決算額 1,865,444,755 円(うち仮払消費税 33,596,522 円)で執行率 95.3%であり、91,020,245 円が不用額となっている。

このうち、営業費用は、決算額 1,670,601,575 円(うち仮払消費税 33,359,913 円)で執行率 95.7%であり、75,390,425 円が不用額となっている。

営業外費用は、決算額 194,843,180 円(うち仮払消費税 236,609 円)で執行率は 93.9%であり、12,629,820 円が不用額となっている。

以上のとおり、収益的収支について本年度は、差引 213,738,007 円(消費税を含む)の黒字決算となっている。

令和3年度 営業成績



## 収益的収入及び支出

(単位：円、%)

| 区分         |    | 予算額           | 決算額           | 収入率   | 予算額と<br>決算額の差 | うち仮受消費税    |
|------------|----|---------------|---------------|-------|---------------|------------|
| 科目         |    |               |               |       |               |            |
| 第1款 事業収益   |    | 2,053,603,000 | 2,079,182,762 | 101.2 | 25,579,762    | 55,940,268 |
| 第1項 営業収益   |    | 716,580,000   | 727,478,091   | 101.5 | 10,898,091    | 55,693,177 |
| 第2項 営業外収益  |    | 1,337,023,000 | 1,351,647,118 | 101.1 | 14,624,118    | 247,091    |
| 第3項 特別利益   |    | 0             | 57,553        | -     | 57,553        | 0          |
| 令和2年度      |    | 2,059,889,000 | 2,148,532,737 | 104.3 | 88,643,737    | 55,121,706 |
| 前年度<br>対 比 | 金額 | △ 6,286,000   | △ 69,349,975  | -     | -             | -          |
|            | 伸率 | △0.3          | △3.2          | -     | -             | -          |

(単位：円、%)

| 区分         |    | 予算額           | 決算額           | 執行率  | 不用額        | うち仮払消費税    |
|------------|----|---------------|---------------|------|------------|------------|
| 科目         |    |               |               |      |            |            |
| 第1款 事業費用   |    | 1,956,465,000 | 1,865,444,755 | 95.3 | 91,020,245 | 33,596,522 |
| 第1項 営業費用   |    | 1,745,992,000 | 1,670,601,575 | 95.7 | 75,390,425 | 33,359,913 |
| 第2項 営業外費用  |    | 207,473,000   | 194,843,180   | 93.9 | 12,629,820 | 236,609    |
| 第3項 特別損失   |    | 0             | 0             | -    | 0          | 0          |
| 第4項 予備費    |    | 3,000,000     | 0             | 0.0  | 3,000,000  | 0          |
| 令和2年度      |    | 2,009,780,000 | 1,963,726,394 | 97.7 | 46,053,606 | 37,582,159 |
| 前年度<br>対 比 | 金額 | △ 53,315,000  | △ 98,281,639  | -    | -          | -          |
|            | 伸率 | △2.7          | △5.0          | -    | -          | -          |
| 収支差引額      |    | 97,138,000    | 213,738,007   | -    | -          | -          |

### (2) 資本的収入及び支出

資本的収入は、決算額 1,813,222,350 円(うち仮受消費税 0 円)で、収入率は 62.4%となっており、前年度に比べ 509,367,320 円(39.1%)増加している。これは主に、下水道工事の増に伴い企業債が 418,300,000 円(50.7%)、国庫補助金等の増により補助金が 64,542,000 円(14.7%)それぞれ増加したためである。

資本的支出は、決算額 2,505,553,269 円(うち仮払消費税 134,366,108 円)であり、前年度に比べ 438,956,609 円(21.2%)増加している。これは主に、下水道工事の増に伴い建設改良費が 420,712,229 円(33.7%)増加したためである。

収入 資本的収入及び支出 (単位：円、%)

| 科目         | 区分 | 予算額           | 決算額           | 収入率   | 予算額と<br>決算額の差  | うち仮受消費税 |
|------------|----|---------------|---------------|-------|----------------|---------|
|            |    |               |               |       |                |         |
| 第1款 資本的収入  |    | 2,907,837,890 | 1,813,222,350 | 62.4  | △1,094,615,540 | 0       |
| 第1項 企業債    |    | 1,854,196,000 | 1,242,800,000 | 67.0  | △611,396,000   | 0       |
| 第2項 負担金    |    | 63,617,000    | 62,422,090    | 98.1  | △1,194,910     | 0       |
| 第3項 分担金    |    | 2,590,000     | 4,524,260     | 174.7 | 1,934,260      | 0       |
| 第4項 補助金    |    | 987,434,890   | 503,476,000   | 51.0  | △483,958,890   | 0       |
| 令和2年度      |    | 2,405,679,000 | 1,303,855,030 | 54.2  | △1,101,823,970 | 0       |
| 前年度<br>対 比 | 金額 | 502,158,890   | 509,367,320   | -     | -              | -       |
|            | 伸率 | 20.9          | 39.1          | -     | -              | -       |

支出 (単位：円、%)

| 科目         | 区分 | 予算額           | 決算額           | 執行率   | 翌年度繰越額<br>不 用 額             | うち仮払消費税     |
|------------|----|---------------|---------------|-------|-----------------------------|-------------|
|            |    |               |               |       |                             |             |
| 第1款 資本的支出  |    | 3,653,137,070 | 2,505,553,269 | 68.6  | 1,132,510,632<br>15,073,169 | 134,366,108 |
| 第1項 建設改良費  |    | 2,817,484,070 | 1,669,901,302 | 59.3  | 1,132,510,632<br>15,072,136 | 134,366,108 |
| 第2項 企業債償還金 |    | 835,653,000   | 835,651,967   | 100.0 | 0<br>1,033                  | 0           |
| 令和2年度      |    | 3,118,773,840 | 2,066,596,660 | 66.3  | 1,046,414,070<br>5,763,110  | 104,955,824 |
| 前年度<br>対 比 | 金額 | 534,363,230   | 438,956,609   | -     | -                           | -           |
|            | 伸率 | 17.1          | 21.2          | -     | -                           | -           |
| 収支差引額      |    | △745,299,180  | △692,330,919  | -     | -                           | -           |

なお、資本的収入1,813,222,350円が資本的支出2,505,553,269円に不足する額692,330,919円(⑤)は、消費税及び地方消費税資本的収支調整額96,202,281円(①)、過年度分損益勘定留保資金173,097,584円(②)、当年度分損益勘定留保資金307,429,837円(③)、減債積立金取崩額115,601,217円(④)で補てんしている。

補てん財源調書 (単位：円)

| 科目           | 区分 | 前年度末残高      | 本年度増加額      | 本年度減少額<br>(補てん額) | 本年度末残高      |
|--------------|----|-------------|-------------|------------------|-------------|
| 消費税資本的収支調整額  |    | 0           | 96,202,281  | ① 96,202,281     | 0           |
| 過年度分損益勘定留保資金 |    | 173,097,584 | 0           | ② 173,097,584    | 0           |
| 当年度分損益勘定留保資金 |    | 0           | 698,619,075 | ③ 307,429,837    | 391,189,238 |
| 利 益 剰 余 金    |    | 115,601,217 | 117,321,486 | 115,601,217      | 117,321,486 |
| 減 債 積 立 金    |    | 115,601,217 | 117,321,486 | ④ 115,601,217    | 117,321,486 |
| 建設改良積立金      |    | 0           | 0           | 0                | 0           |
| 利益積立金        |    | 0           | 0           | 0                | 0           |
| 合 計          |    | 288,698,801 | 912,142,842 | ⑤ 692,330,919    | 508,510,724 |

※消費税資本的収支調整額：消費税及び地方消費税は、収益的収支と資本的収支の差額分を一括して計算し収益的収入・支出としている。このため、資本的収支上に消費税等の差引額は反映されていないことから、消費税等に係る資本的収支の差引額を補てん財源として充てるもの。

※損益勘定留保資金：現金支出を伴わない減価償却費に相当する額等。

※減債積立金：企業債償還金の財源としての積立金。

### 3. 経営成績

損益計算書は、事業年度における企業の収益がどのようにしてどのくらい得られたか、また、収益に対する費用がどれだけ必要であったかを端的に表すもので、当年度の企業の経営成績をみる指標となるものである。

経営内容を損益計算書からみると、総収益 1,950,893,899 円(金額は消費税抜きである。以下同じ。)に対し、総費用は 1,833,572,413 円で、差引 117,321,486 円の純利益が生じている。

#### (1) 営業損益

営業収益は 671,784,914 円で、前年度に比べ 20,502,714 円(3.0%)減少している。これは下水道使用料が 6,153,786 円(1.1%)増加したものの、雨水処理に要する維持管理費の減により他会計負担金が 26,689,000 円(19.0%)減少したためである。

営業費用は 1,637,241,662 円で、前年度に比べ 83,202,581 円(4.8%)減少している。これは主に、退職給付費引当金繰入額の増等により総係費が 7,068,394 円(17.4%)増加したものの、固定資産除去費の減により資産減耗費が 34,980,176 円(99.7%)、減価償却費が 18,398,334 円(1.5%)、委託料の減により処理場費が 18,493,752 円(6.4%)それぞれ減少したためである。

営業損益は、965,456,748 円の損失となり、前年度に比べ 62,699,867 円(6.1%)損失が減少している。

なお、営業収支比率は 41.0%で、前年度に比べ 0.8 ポイント上昇している。(別表 1)

#### (2) 営業外損益

営業外収益は 1,279,051,432 円で、前年度に比べ 91,246,428 円(6.7%)減少している。これは、雑収益が 2,574,228 円(187.6%)増加したものの、他会計補助金が 52,064,000 円(6.2%)、長期前受金戻入が 29,907,097 円(5.8%)、国庫補助金の減により補助金が 11,850,000 円(90.8%)それぞれ減少したためである。

営業外費用は 196,330,751 円で、前年度に比べ 30,278,503 円(13.4%)減少している。これは主に、消費税精算額の減等により雑支出が 17,203,132 円(80.8%)、建設改良分の下水道事業債支払利息の減等により支払利息が 13,825,371 円(6.8%)それぞれ減少したためである。

営業外損益は 1,082,720,681 円の利益となるが、前年度に比べ 60,967,925 円(5.3%)減少している。

#### (3) 経常損益

営業損益と営業外損益を合計した経常損益は 117,263,933 円の利益となっており、前年度に比べ 1,731,942 円(1.5%)増加している。

#### (4) 特別損益

貸倒引当金戻入に伴う特別利益は 57,553 円である。

#### (5) 当年度損益

当年度の損益は、総収益と総費用を差し引きした 117,321,486 円の純利益となっている。

なお、通常 100%以上とされる総収益と総費用を対比した総収支比率は 106.4%で、前年度の 105.9%に比べ 0.5 ポイント上昇しており、県下企業 99.4%と比べると高い水準であり、類

似企業 106.5%に近い数値となっている。(別表1)

### (6) 汚水処理原価と使用料単価

汚水処理原価は1 m<sup>3</sup>当たり 186 円 35 銭で、前年度に比べ2 円 95 銭減少している。使用料単価は1 m<sup>3</sup>当たり 172 円 23 銭で、前年度に比べ19 銭増加している。使用料単価から汚水処理原価を差し引いた使用料利益は14 円 12 銭の損失で、前年度に比べ3 円 14 銭増加している。

汚水処理原価と使用料単価調（有収水量 1 m<sup>3</sup>当り）

(単位：円、%)

| 項目          | 規模別       | 中 津 市   |         |        | 類似企業<br>1,347事業 |
|-------------|-----------|---------|---------|--------|-----------------|
|             |           | 令和2年度   | 令和3年度   | 増減     | 令和2年度           |
| 汚 水 処 理 原 価 | (A)       | 189.30  | 186.35  | △ 2.95 | 165.32          |
| 使 用 料 単 価   | (B)       | 172.04  | 172.23  | 0.19   | 146.49          |
| 使 用 料 利 益   | (B-A)=(C) | △ 17.26 | △ 14.12 | 3.14   | △ 18.83         |
| 経 費 回 収 率   | (B/A)     | 90.88   | 92.42   | 1.54   | 88.61           |
| 収 益 率       | (C/A)     | △ 9.12  | △ 7.58  | 1.54   | △ 11.39         |

## 比較損益計算書

(単位：円、%)

| 区 分<br>科目               | 令和 2 年度        |                        | 令和 3 年度       |                        | 対前年度比       |       |
|-------------------------|----------------|------------------------|---------------|------------------------|-------------|-------|
|                         | 金 額            | 総収益又は<br>総費用に<br>対する比率 | 金 額           | 総収益又は<br>総費用に<br>対する比率 | 増 減 額       | 比率    |
| 1. 営業収益                 | 692,287,628    | 33.6                   | 671,784,914   | 34.4                   | △20,502,714 | △3.0  |
| (1) 下水道使用料              | 550,778,128    | 26.7                   | 556,931,914   | 28.5                   | 6,153,786   | 1.1   |
| (2) 他会計負担金              | 140,689,000    | 6.8                    | 114,000,000   | 5.8                    | △26,689,000 | △19.0 |
| (3) その他営業収益             | 820,500        | 0.1                    | 853,000       | 0.1                    | 32,500      | 4.0   |
| 2. 営業費用                 | 1,720,444,243  | 88.4                   | 1,637,241,662 | 89.3                   | △83,202,581 | △4.8  |
| (1) 管渠費                 | 50,582,262     | 2.6                    | 40,185,990    | 2.2                    | △10,396,272 | △20.6 |
| (2) ポンプ場費               | 47,500,968     | 2.4                    | 39,094,163    | 2.1                    | △8,406,805  | △17.7 |
| (3) 処理場費                | 289,769,738    | 14.9                   | 271,275,986   | 14.8                   | △18,493,752 | △6.4  |
| (4) 総係費                 | 40,543,862     | 2.1                    | 47,612,256    | 2.6                    | 7,068,394   | 17.4  |
| (5) 業務費                 | 52,202,532     | 2.7                    | 52,606,896    | 2.9                    | 404,364     | 0.8   |
| (6) 減価償却費               | 1,204,764,330  | 61.9                   | 1,186,365,996 | 64.7                   | △18,398,334 | △1.5  |
| (7) 資産減耗費               | 35,080,551     | 1.8                    | 100,375       | 0.0                    | △34,980,176 | △99.7 |
| A 営業損益<br>(1 - 2)       | △1,028,156,615 | -                      | △965,456,748  | -                      | 62,699,867  | △6.1  |
| 3. 営業外収益                | 1,370,297,860  | 66.4                   | 1,279,051,432 | 65.6                   | △91,246,428 | △6.7  |
| (1) 受取利息                | 3,014          | 0.0                    | 3,455         | 0.0                    | 441         | 14.6  |
| (2) 他会計補助金              | 838,118,000    | 40.6                   | 786,054,000   | 40.3                   | △52,064,000 | △6.2  |
| (3) 補助金                 | 13,050,000     | 0.6                    | 1,200,000     | 0.1                    | △11,850,000 | △90.8 |
| (4) 長期前受金戻入             | 517,754,393    | 25.1                   | 487,847,296   | 25.0                   | △29,907,097 | △5.8  |
| (5) 雑収益                 | 1,372,453      | 0.1                    | 3,946,681     | 0.2                    | 2,574,228   | 187.6 |
| 4. 営業外費用                | 226,609,254    | 11.6                   | 196,330,751   | 10.7                   | △30,278,503 | △13.4 |
| (1) 支払利息                | 202,145,735    | 10.4                   | 188,320,364   | 10.3                   | △13,825,371 | △6.8  |
| (2) 雑支出                 | 21,293,519     | 1.1                    | 4,090,387     | 0.2                    | △17,203,132 | △80.8 |
| (3) 補助金                 | 3,170,000      | 0.1                    | 3,920,000     | 0.2                    | 750,000     | 23.7  |
| B 営業外損益<br>(3 - 4)      | 1,143,688,606  | -                      | 1,082,720,681 | -                      | △60,967,925 | △5.3  |
| C 経常損益<br>(A + B)       | 115,531,991    | -                      | 117,263,933   | -                      | 1,731,942   | 1.5   |
| 5. 特別利益                 | 69,226         | 0.0                    | 57,553        | 0.0                    | △11,673     | △16.9 |
| 6. 特別損失                 | 0              | 0.0                    | 0             | 0.0                    | 0           | -     |
| D 当年度純利益<br>(C + 5 - 6) | 115,601,217    | -                      | 117,321,486   | -                      | 1,720,269   | 1.5   |
| E 前年度繰越利益剰余金            | 0              | -                      | 0             | -                      | 0           | -     |
| 当年度未処分利益剰余金<br>(D + E)  | 115,601,217    | -                      | 117,321,486   | -                      | 1,720,269   | 1.5   |

[ 令和 3 年度 総収益 1,950,893,899円 総費用 1,833,572,413円 ]  
 [ 令和 2 年度 総収益 2,062,654,714円 総費用 1,947,053,497円 ]



## 4. 財政状態

### (1) 資産

資産合計は 32,210,811,767 円で、前年度に比べ 775,061,785 円 (2.5%) 増加している。

内訳をみると、固定資産は前年度に比べ 363,669,876 円 (1.2%) 増加している。これは主に機械及び装置が 305,730,582 円 (10.8%) 減少したものの、建設仮勘定が 441,568,066 円 (大幅増)、構築物が 240,974,927 円 (0.9%) それぞれ増加したためである。

流動資産は 1,130,506,815 円で、前年度に比べ 411,391,909 円 (57.2%) 増加している。これは主に、前払金が 95,872,000 円 (45.7%) 減少したものの、現金及び預金が 543,485,773 円 (189.4%) 増加したためである。

また、未収金の状況は、次表のとおりである。

#### 未 収 金 等 の 状 況

(単位：円、%)

| 区分     | 年度   | 令和2年度       | 令和3年度       | 対前年度        |       |
|--------|------|-------------|-------------|-------------|-------|
|        |      |             |             | 増減額         | 増減率   |
| 下水道使用料 |      | 115,244,170 | 114,343,970 | △900,200    | △0.8  |
|        | 現年度分 | 110,077,245 | 108,655,660 | △1,421,585  | △1.3  |
|        | 過年度分 | 5,166,925   | 5,688,310   | 521,385     | 10.1  |
| 営業外未収金 |      | 74,787,000  | 151,725     | △74,635,275 | △99.8 |
| その他未収金 |      | 1,850,000   | 0           | △1,850,000  | 皆減    |
| 貸倒引当金  |      | △958,355    | △666,122    | 292,233     | △30.5 |
| 計      |      | 190,922,815 | 113,829,573 | △77,093,242 | △40.4 |
| 不納欠損額  |      | 263,852     | 248,480     | △15,372     | △5.8  |

※収入未済額は納期未到来分 (2月分は4月納期・3月分は5月納期) 含む。

このうち、下水道使用料の収入未済額は 114,343,970 円であり、現年度分は 1,421,585 円減少し、過年度分は 521,385 円増加している。徴収状況については、現年度分の徴収率は 82.3% で前年度に比べ 0.5 ポイント上昇し、過年度分は 94.6% で 0.6 ポイント下降している。また、本年度は 248,480 円の不納欠損処分を行っている。

なお、不納欠損処分についてはいずれも関係法令等に則り適正に処理されているものと認められた。今後も引き続き適正な債権管理に努められたい。

未収金は、時間の経過とともに回収が困難となる。また、下水道使用料の未収は、企業の経営悪化の要因となるので、市民の負担の公平を図るためにも、未収金回収について、現年度での回収を前提に迅速かつ実効性のある対応策を取り、一層の努力をされるよう要望する。

### (2) 負債及び資本

負債合計は 25,268,130,910 円で、前年度に比べ 635,436,185 円 (2.6%) 増加している。

内訳をみると、固定負債は前年度に比べ 416,788,897 円 (3.5%) 増加している。これは主に、企業債が 412,054,421 円 (3.6%) 増加したためである。

流動負債は前年度に比べ 181,939,122 円 (18.9%) 増加している。これは主に、未払金が

209,022,758円(687.1%)増加したためである。

本年度の企業債の発行額は1,242,800,000円、償還額は835,651,967円となっている。

なお、企業債の概況は次表のとおりである。

繰延収益は前年度に比べ36,708,166円(0.3%)増加している。これは、収益化累計額が483,154,888円(49.4%)減少したものの、長期前受金が519,863,054円(4.1%)増加したためである。

資本合計は6,942,680,857円で、前年度に比べ139,625,600円(2.1%)増加している。

内訳をみると、資本金は前年度と比べ74,262,910円(1.2%)増加している。

剰余金は前年度に比べ65,362,690円(15.1%)増加している。これは主に、その他未処分利益剰余金が41,338,307円(55.7%)、国庫補助金が14,647,061円(6.6%)それぞれ増加したためである。

比率が高いほど経営の安全性が大きいとされる企業財政の長期の健全化をみる自己資本構成比率は58.4%で、前年度より0.9ポイント下降し、県下企業63.1%・類似企業61.7%と比べてもやや低い数値となっている。

また、100%以下が望ましいとされる固定資産対長期資本比率は100.0%で、前年度の100.8%と比べ0.8ポイント下降し改善されており、県下企業102.2%・類似企業101.5%と比べても良好な数値となっている。

固定資産は自己資本によってまかなわれるべきとする企業財政上の原則から、100%以下が望ましいとされる固定比率は165.1%で前年度の164.7%と比べ0.4ポイント上昇しており、県下企業155.5%・類似企業157.5%と比べても高い数値となっている。

短期債務に対する支払能力を示す流動比率は99.0%で、前年度に比べ24.1ポイント上昇しているものの、必要とされる100%以上には届いていないが、県下企業47.4%・類似企業66.3%と比べると高い数値となっている。

また、流動資産のうち現金預金や未収金などの当座資産と流動負債を対比させた酸性試験比率(当座比率)は89.0%で、前年度に比べ39.2ポイント上昇しているものの、理想とされる100%には届いていないが、県下企業35.9%・類似企業58.8%と比べると高い数値となっている。

以上のとおり、負債及び資本について考察すると、前年度に比べて比率が改善されている項目はあるものの、理想とされる比率に及ばない項目が多い。(別表1)

## 企業債の概況

(単位：円)

| 借入先   | 借入の目的         | 前年度末残高         | 本年度借入額        | 本年度償還高      | 本年度末残高         |
|-------|---------------|----------------|---------------|-------------|----------------|
| 政府資金  | 公共下水道事業       | 4,074,887,932  | 0             | 390,946,594 | 3,683,941,338  |
|       | 特定環境保全公共下水道事業 | 465,830,626    | 0             | 36,581,155  | 429,249,471    |
| 機構資金  | 公共下水道事業       | 7,344,759,853  | 1,242,800,000 | 353,534,220 | 8,234,025,633  |
|       | 特定環境保全公共下水道事業 | 426,429,677    | 0             | 25,095,998  | 401,333,679    |
| 市中銀行等 | 公共下水道事業       | 26,074,000     | 0             | 26,074,000  | 0              |
|       | 公営企業会計適用債     | 22,770,000     | 0             | 3,420,000   | 19,350,000     |
| 合計    |               | 12,360,752,088 | 1,242,800,000 | 835,651,967 | 12,767,900,121 |

比較貸借対照表

(単位：円、%)

| 区分          | 令和2年度          |       | 令和3年度          |       | 対前年度比        |       |
|-------------|----------------|-------|----------------|-------|--------------|-------|
|             | 金額             | 構成比   | 金額             | 構成比   | 増減額          | 比率    |
| 1. 固定資産     | 30,716,635,076 | 97.7  | 31,080,304,952 | 96.4  | 363,669,876  | 1.2   |
| (1) 有形固定資産  | 30,716,635,076 | 97.7  | 31,080,304,952 | 96.4  | 363,669,876  | 1.2   |
| 土地          | 550,345,263    | 1.8   | 587,296,437    | 1.8   | 36,951,174   | 6.7   |
| 建物          | 705,377,711    | 2.2   | 659,079,526    | 2.0   | △46,298,185  | △6.6  |
| 構築物         | 26,607,145,382 | 84.6  | 26,848,120,309 | 83.4  | 240,974,927  | 0.9   |
| 機械及び装置      | 2,821,056,573  | 9.0   | 2,515,325,991  | 7.8   | △305,730,582 | △10.8 |
| 車両運搬具       | 656,594        | 0.0   | 101,131        | 0.0   | △555,463     | △84.6 |
| 器具備品        | 11,979,415     | 0.0   | 8,739,354      | 0.0   | △3,240,061   | △27.0 |
| 建設仮勘定       | 20,074,138     | 0.1   | 461,642,204    | 1.4   | 441,568,066  | 大幅増   |
| 2. 流動資産     | 719,114,906    | 2.3   | 1,130,506,815  | 3.6   | 411,391,909  | 57.2  |
| (1) 現金及び預金  | 286,961,491    | 0.9   | 830,447,264    | 2.6   | 543,485,773  | 189.4 |
| (2) 未収金     | 190,922,815    | 0.6   | 113,829,573    | 0.4   | △77,093,242  | △40.4 |
| (3) 未収消費税   | 30,775,800     | 0.1   | 72,365,978     | 0.2   | 41,590,178   | 135.1 |
| (4) 貯蔵品     | 718,800        | 0.0   | 0              | 0.0   | △718,800     | 皆減    |
| (5) 前払金     | 209,736,000    | 0.7   | 113,864,000    | 0.4   | △95,872,000  | △45.7 |
| 資産合計        | 31,435,749,982 | 100.0 | 32,210,811,767 | 100.0 | 775,061,785  | 2.5   |
| 3. 固定負債     | 11,830,654,458 | 37.7  | 12,247,443,355 | 38.0  | 416,788,897  | 3.5   |
| (1) 企業債     | 11,525,100,121 | 36.7  | 11,937,154,542 | 37.1  | 412,054,421  | 3.6   |
| (2) 他会計借入金  | 300,000,000    | 1.0   | 300,000,000    | 0.9   | 0            | 0.0   |
| (3) 引当金     | 5,554,337      | 0.0   | 10,288,813     | 0.0   | 4,734,476    | 85.2  |
| 4. 流動負債     | 960,513,735    | 3.1   | 1,142,452,857  | 3.5   | 181,939,122  | 18.9  |
| (1) 企業債     | 835,651,967    | 2.7   | 830,745,579    | 2.6   | △4,906,388   | △0.6  |
| (2) 未払金     | 30,419,585     | 0.1   | 239,442,343    | 0.7   | 209,022,758  | 687.1 |
| (3) 未払費用    | 80,347,893     | 0.3   | 62,489,850     | 0.2   | △17,858,043  | △22.2 |
| (4) 未払消費税   | 0              | 0.0   | 0              | 0.0   | 0            | —     |
| (5) 預り金     | 5,199,138      | 0.0   | 639,824        | 0.0   | △4,559,314   | △87.7 |
| (6) 引当金     | 8,895,152      | 0.0   | 9,135,261      | 0.0   | 240,109      | 2.7   |
| 5. 繰延収益     | 11,841,526,532 | 37.7  | 11,878,234,698 | 36.9  | 36,708,166   | 0.3   |
| (1) 長期前受金   | 12,819,778,406 | 40.8  | 13,339,641,460 | 41.4  | 519,863,054  | 4.1   |
| (2) 収益化累計額  | △978,251,874   | △3.1  | △1,461,406,762 | △4.5  | △483,154,888 | △49.4 |
| 負債合計        | 24,632,694,725 | 78.4  | 25,268,130,910 | 78.4  | 635,436,185  | 2.6   |
| 6. 資本金      | 6,370,803,873  | 20.3  | 6,445,066,783  | 20.0  | 74,262,910   | 1.2   |
| (1) 自己資本金   | 6,370,803,873  | 20.3  | 6,445,066,783  | 20.0  | 74,262,910   | 1.2   |
| 7. 剰余金      | 432,251,384    | 1.3   | 497,614,074    | 1.6   | 65,362,690   | 15.1  |
| (1) 資本剰余金   | 242,387,257    | 0.8   | 264,691,371    | 0.8   | 22,304,114   | 9.2   |
| 受贈財産評価額     | 19,066,963     | 0.1   | 26,724,016     | 0.1   | 7,657,053    | 40.2  |
| 国庫補助金       | 223,320,294    | 0.7   | 237,967,355    | 0.7   | 14,647,061   | 6.6   |
| (2) 利益剰余金   | 189,864,127    | 0.5   | 232,922,703    | 0.8   | 43,058,576   | 22.7  |
| 減債積立金       | 0              | 0.0   | 0              | 0.0   | 0            | —     |
| 建設改良積立金     | 0              | 0.0   | 0              | 0.0   | 0            | —     |
| 当年度未処分利益剰余金 | 115,601,217    | 0.3   | 117,321,486    | 0.4   | 1,720,269    | 1.5   |
| その他未処分利益剰余金 | 74,262,910     | 0.2   | 115,601,217    | 0.4   | 41,338,307   | 55.7  |
| 資本合計        | 6,803,055,257  | 21.6  | 6,942,680,857  | 21.6  | 139,625,600  | 2.1   |
| 負債・資本合計     | 31,435,749,982 | 100.0 | 32,210,811,767 | 100.0 | 775,061,785  | 2.5   |

### (3) 収益性

企業の収益性を総合的に判断するものとしては、資本に対する利益の程度を示す最も基本的な比率である総資本利益率があり、数値が高いほど良いとされている。本年度は前年度と同じ0.4%で、県下企業0.0%・類似企業0.4%とほぼ同じ数値となっている。

通常100%以上とされる企業活動と経営状態を示す総収支比率は106.4%で、前年度の105.9%に比べ0.5ポイント上昇しており、県下企業99.4%と比べると高い水準であり、類似企業106.5%に近い数値となっている。

営業収支比率は、営業収益と営業費用との対比で業務活動の能力を示し、経営活動の成否が判断されるものであり、比率が高いほど良いとされている。本年度は41.0%で、前年度より0.8ポイント上昇しているが、県下企業57.2%・類似企業71.8%より下回っている。

当年度の減価償却額と固定資産を比較した減価償却率は3.8%で、前年度と同じであり、県下企業4.1%・類似企業3.7%とほぼ同じ数値となっている。

比率が高いほど良いとされる未収金の回転速度を示す未収金回転率は3.6回で、前年度より1.0ポイント下降しており、県下企業6.1回・類似企業6.0回と比べても下回っている。

これらの結果より、総資本利益率、総収支比率、減価償却率はほぼ同率であるものの、営業収支比率、未収金回転率は下回っている。（別表1）

### (4) 労働生産性

労働生産性は、職員一人当りの営業収益、水洗化人口と有収水量で示される。本年度は、次表のとおりである。

営業収益は55,982千円で前年度に比べ1,709千円(3.0%)減少し、水洗化人口は2,532人で前年度に比べ133人(5.5%)、有収水量は269,469m<sup>3</sup>で前年度に比べ2,687m<sup>3</sup>(1.0%)それぞれ増加している。

労働生産性一覧表（職員一人当たり）

| 区分                    | 年度 | 中 津 市   |         |        |       | 県下企業<br>22事業 | 類似企業<br>1,347事業 |
|-----------------------|----|---------|---------|--------|-------|--------------|-----------------|
|                       |    | 令和2年度   | 令和3年度   | 増減     | 増減率   | 令和2年度        | 令和2年度           |
| 営業収益(千円)              |    | 57,691  | 55,982  | △1,709 | △3.0% | 73,183       | 114,262         |
| 水洗化人口(人)              |    | 2,399   | 2,532   | 133    | 5.5%  | 3,680        | 5,444           |
| 有収水量(m <sup>3</sup> ) |    | 266,782 | 269,469 | 2,687  | 1.0%  | 445,634      | 614,184         |

### (5) キャッシュ・フロー

キャッシュ・フロー計算書は財務諸表のひとつで、会計期間内の資金の動きを表したものであり、3つに細分化される。

業務活動によるキャッシュ・フローは、企業の主たる営業活動で発生した現金や容易に換金可能な預金(以下現金等)の増減を表している。本年度は1,139,614,411円である。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備等の投資、固定資産の売買に関する現金等の増減を表している。本年度は△1,003,276,671円である。

財務活動によるキャッシュ・フローは、企業活動に必要な資金の調達や企業債などの返済に

関する現金等の増減を表している。本年度は 407,148,033 円である。(別表 2)

以上の 3 区分から、本年度の資金期末残高は 830,447,264 円で、健全な現金等の管理運営が行われている状況にあると考えられる。

なお、資金期末残高の額と貸借対照表中の現金及び預金の額とは一致している。

また、出納取扱金融機関の当年度末預金残高と照合した結果、差引残高 830,447,264 円(普通預金 830,447,264 円)は正確であることを確認した。

## 5. むすび

以上が令和 3 年度下水道事業の決算審査の概要である。

この下水道事業については、平成 31 年 4 月から地方公営企業法の財務規定等を適用する公営企業会計へ移行し 3 年目の決算となる。

下水道事業は、生活環境の改善、川や海の水質保全、浸水からまちを守ることを基本目的とし、污水管渠の布設、終末処理場や雨水幹線の整備など各種事業に取り組んでいる。

本年度は、污水管渠の整備については東浜枝線管渠布設工事や大新田枝線管渠布設工事を実施した。

終末処理場については、長寿命化事業として電気設備や汚泥処理設備等の更新事業に取り組んでいる。

雨水対策としては、米山及び牛神・湯屋地区の雨水幹線整備や角木雨水ポンプ場整備に伴う実施設計及び移転物件調査算定等に取り組んでいる。

業務の状況についてみると、年度末の水洗化人口は 30,386 人で、前年度に比べ 1,596 人(5.5%)増加している。水洗化率は、前年度に比べ 2.4 ポイント増加し 81.5%となった。

年間総処理水量は 4,269,676 m<sup>3</sup>で、前年度に比べ 84,627 m<sup>3</sup>(2.0%)減少したものの、有収水量は 3,233,629 m<sup>3</sup>で、前年度に比べ 32,240 m<sup>3</sup>(1.0%)増加している。有収率は前年度に比べ 2.2 ポイント上昇し 75.7%となった。

経営状況についてみると、総収益は 1,950,893,899 円で、前年度 2,062,654,714 円に比べ 111,760,815 円(5.4%)減少している。

総費用は、1,833,572,413 円で、前年度 1,947,053,497 円に比べ 113,481,084 円(5.8%)減少している。この結果、当年度損益は 117,321,486 円の純利益となり、前年度 115,601,217 円の純利益に比べ 1,720,269 円(1.5%)増加している。また、当年度末処分利益剰余金は 117,321,486 円で、全額を減債積立金に積立予定である。

なお、営業収支比率は 41.0%で、前年度に比べ 0.8 ポイント上昇し、総収支比率も 106.4%で、前年度に比べ 0.5 ポイント上昇している。

資本的収支についてみると、資本的収入は、1,813,222,350 円で、前年度に比べ企業債が 418,300,000 円(50.7%)、国庫補助金等の増により補助金が 64,542,000 円(14.7%)それぞれ増加したことなどにより 509,367,320 円(39.1%)増加している。

資本的支出は、2,505,553,269 円で、前年度に比べ建設改良費が 420,712,229 円(33.7%)増加したことなどにより 438,956,609 円(21.2%)増加している。

なお、資本的収入が資本的支出に不足する額 692,330,919 円は、消費税及び地方消費税資本的収支調整額 96,202,281 円、過年度分損益勘定留保資金 173,097,584 円、当年度分損益勘定留保資金 307,429,837 円、減債積立金取崩額 115,601,217 円で補てんされている。

当年度末の企業債残高は、12,767,900,121 円で、年度中の借入額は 1,242,800,000 円、償還

額は 835,651,967 円となっている。

経営面においては、下水道事業を取り巻く環境は、人口減少や高齢社会の進展により経済活動は縮小傾向にあり、施設の改築更新、気候変動により頻発する集中豪雨による浸水被害に対する雨水対策、地震・津波対策など未普及対策以外の費用も増加している中、水洗化率は81.5%と類似企業 95.5%と比べてもかなり低く、水洗化率を高めて行かなければ経費の回収率改善も厳しい状況である。

今後も、経営の効率化、経費の節減、収益の確保を常に念頭におき、未加入世帯への加入促進を行うとともに、将来にわたり持続可能な経営基盤を確立するために、技術継承を見据えて民間事業者との連携推進などを図り、「環境共生都市なかつ」の実現に向け、川や海を守り、衛生的で住みやすい生活環境の構築に一層尽力されることを望むものである。



## 別表 1

## 経営分析比率表

| 分析項目                 | 算出基礎<br>(令和3年度中津市 単位:千円)   | 比較      |         |         |         | 説明   |
|----------------------|--|---------|---------|---------|---------|--|
|                      |  | 中津市     |         | 県下企業    | 類似企業    |  |
|                      |  | 3年度     | 2年度     | 2年度     | 2年度     |  |
| 1. 自己資本構成比率          | $\frac{\text{資本金(6,445,067)} + \text{剰余金(497,614)} + \text{評価差額等(0)} + \text{繰延収益(11,878,235)}}{\text{総資本(32,210,812)}} \times 100$                                    | 58.4    | 59.3    | 63.1    | 61.7    | 資本総額とこれを構成する自己資本の関係を示すもので、自己資本構成比率が高いほど経営の安全性は大きいものといえる。   |
| 2. 固定資産対長期資本比率       | $\frac{\text{固定資産(31,080,305)}}{\text{資本金(6,445,067)} + \text{剰余金(497,614)} + \text{固定負債(12,247,443)} + \text{評価差額等(0)} + \text{繰延収益(11,878,235)}} \times 100$         | 100.0   | 100.8   | 102.2   | 101.5   | 固定資産の調達が、自己資本と固定負債の範囲で行われているかを示すもので、100%以下が望ましい。           |
| 3. 固定比率              | $\frac{\text{固定資産(31,080,305)}}{\text{資本金(6,445,067)} + \text{剰余金(497,614)} + \text{評価差額等(0)} + \text{繰延収益(11,878,235)}} \times 100$                                   | 165.1   | 164.7   | 155.5   | 157.5   | 固定資産は自己資本によってまかなわれるべきとする企業財政上の原則から、100%以下が望ましい。            |
| 4. 流動比率              | $\frac{\text{流動資産(1,130,507)}}{\text{流動負債(1,142,453)}} \times 100$   | 99.0    | 74.9    | 47.4    | 66.3    | 短期債務に対して応ずべき流動資産が十分あるかを示し100%以上が必要であり、理想比率は200%以上である。      |
| 5. 酸性試験比率<br>(当座比率)  | $\frac{\text{現金及び預金(830,447)} + \text{未収金(186,862)} - \text{貸倒引当金(666)}}{\text{流動負債(1,142,453)}} \times 100$   | 89.0    | 49.8    | 35.9    | 58.8    | 当座資産と流動負債とを対比させたもので、100%以上が望ましい。                           |
| 6. 減価償却率             | $\frac{\text{当年度減価償却費(1,186,366)}}{\text{有形固定資産(31,080,305)} + \text{無形固定資産(0)} - \text{土地(587,297)} - \text{建設仮勘定(461,642)} + \text{当年度減価償却費(1,186,366)}} \times 100$ | 3.8     | 3.8     | 4.1     | 3.7     | 当年度の減価償却額と固定資産を比較し、固定資産に投下された資本の回収速度をみる。                   |
| 7. 未収金回転率            | $\frac{\text{営業収益(671,785)} - \text{受託工事収益(0)}}{\text{平均未収金(188,560)}} \times 100$   | 3.6     | 4.6     | 6.1     | 6.0     | 未収金の回収速度を示し、高いほど回転が早く、未回収のまま残留する期間が短いことを示す。                |
| 8. 総資本利益率            | $\frac{\text{当年度経常利益(117,264)}}{\text{期首・期末総資本平均(31,823,281)}} \times 100$   | 0.4     | 0.4     | 0.0     | 0.4     | 企業の収益性を総合的に判断するもので、利益がどれだけ資本を用いた結果であるか、その効率をみる。数値が高いほどよい。  |
| 9. 総収支比率             | $\frac{\text{総収益(1,950,894)}}{\text{総費用(1,833,573)}} \times 100$   | 106.4   | 105.9   | 99.4    | 106.5   | 総収益と総費用とを対比して、収益と費用の総合的な関連を示すものである。比率は高いほど良く、通常は100%以上である。 |
| 10. 営業収支比率           | $\frac{\text{営業収益(671,785)} - \text{受託工事収益(0)}}{\text{営業費用(1,637,242)} - \text{受託工事費用(0)}} \times 100$   | 41.0    | 40.2    | 57.2    | 71.8    | 業務活用の能力を示すもので、これによって経営活動の成否が判断されるものであり、比率が高いほどよいとされる。      |
| 11. 職員一人当たり<br>営業収益  | $\frac{\text{営業収益(671,785)} - \text{受託工事収益(0)}}{\text{損益勘定所属職員数(12人)}}$  | 55,982  | 57,691  | 73,183  | 114,130 | (単位:千円)  |
| 12. 職員一人当たり<br>水洗化人口 | $\frac{\text{水洗化人口(30,386人)}}{\text{損益勘定所属職員数(12人)}}$  | 2,532   | 2,399   | 3,680   | 5,438   | (単位:人)   |
| 13. 職員一人当たり<br>有収水量  | $\frac{\text{有収水量(3,233,629 m}^3\text{)}}{\text{損益勘定所属職員数(12人)}}$  | 269,469 | 266,782 | 445,634 | 613,474 | (単位:m <sup>3</sup> )                                       |
| 14. 有収率              | $\frac{\text{有収水量(3,233,629 m}^3\text{)}}{\text{年間総処理水量(4,269,676 m}^3\text{)}} \times 100$  | 75.7    | 73.5    | 75.5    | 80.5    | 総処理水量のうち、料金収入となる水量の割合を示す。(単位:%)                            |

(注) 1. 上記表の数値は、類似団体との比較のために地方公営企業決算状況調査(決算統計)の数値を使用。

2. 県下企業は、大分県下市町村22事業で、令和2年度市町村財政概要(大分県総務部市町村振興課発行)から参照。

3. 類似企業は、地方公営企業法適用(公共下水道と特環)1,347事業で、令和2年度地方公営企業年鑑(総務省発行)から参照。

4. 総資本=負債+資本

## 別表 2

## キャッシュ・フロー計算書

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

(単位：円)

| 区 分                     | 金 額             |
|-------------------------|-----------------|
| 1. 業務活動によるキャッシュ・フロー     |                 |
| 当年度純利益                  | 117,321,486     |
| 減価償却費                   | 1,186,365,996   |
| 固定資産除却費                 | 100,375         |
| 固定資産売却益(△は益)            | 0               |
| 引当金の増減額(△は減少)           | 4,682,352       |
| 長期前受金戻入額                | △ 487,847,296   |
| 受取利息及び受取配当金             | △ 3,455         |
| 支払利息                    | 188,320,364     |
| 未収金の増減額(△は増加)           | 35,795,297      |
| 貯蔵品の増減額(△は増加)           | 718,800         |
| 前払金の増減額(△は増加)           | 95,872,000      |
| 未払金の増減額(△は減少)           | 191,164,715     |
| 前受金の増減額(△は減少)           | 0               |
| 預り金の増減額(△は減少)           | △ 4,559,314     |
| 小 計                     | 1,327,931,320   |
| 利息及び配当金の受取額             | 3,455           |
| 利息の支払額                  | △ 188,320,364   |
| 計 (A)                   | 1,139,614,411   |
| 2. 投資活動によるキャッシュ・フロー     |                 |
| 固定資産の取得による支出            | △ 1,535,535,194 |
| 固定資産売却による収入             | 0               |
| 補助金による収入                | 467,350,730     |
| 補助金返還による支出              | 0               |
| 受益者負担金・分担金による収入         | 64,907,793      |
| 一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入 | 0               |
| 計 (B)                   | △ 1,003,276,671 |
| 3. 財務活動によるキャッシュ・フロー     |                 |
| 企業債による収入                | 1,242,800,000   |
| 企業債の償還による支出             | △ 835,651,967   |
| 他会計からの出資による収入           | 0               |
| 計 (C)                   | 407,148,033     |
| 資金に係る換算差額               | 0               |
| 資金増加額(又は減少額) (A+B+C)    | 543,485,773     |
| 資金期首残高                  | 286,961,491     |
| 資金期末残高                  | 830,447,264     |